



JAEA-Review

2007-024



JP0750251

発表論文にみる研究所図書館の活動 —日本原子力研究所図書館の場合—

Review of Research Institute Library Activity through the Contributed Papers;
The Case of the Japan Atomic Energy Research Institute Library

池田 貴儀 羽原 正 石川 正 板橋 廉造 米澤 稔

Kiyoshi IKEDA, Tadashi HABARA, Masashi ISHIKAWA, Keizo ITABASHI
and Minoru YONEZAWA

研究技術情報部

Intellectual Resources Department

JAEA Review

March 2007

Japan Atomic Energy Agency

日本原子力研究開発機構

本レポートは日本原子力研究開発機構が不定期に発行する成果報告書です。
本レポートの入手並びに著作権利用に関するお問い合わせは、下記あてにお問い合わせ下さい。
なお、本レポートの全文は日本原子力研究開発機構ホームページ (<http://www.jaea.go.jp/index.shtml>)
より発信されています。このほか財団法人原子力弘済会資料センター*では実費による複写頒布を行つております。

〒319-1195 茨城県那珂郡東海村白方白根 2 番地 4
日本原子力研究開発機構 研究技術情報部 研究技術情報課
電話 029-282-6387, Fax 029-282-5920

* 〒319-1195 茨城県那珂郡東海村白方白根 2 番地 4 日本原子力研究開発機構内

This report is issued irregularly by Japan Atomic Energy Agency
Inquiries about availability and/or copyright of this report should be addressed to
Intellectual Resources Section, Intellectual Resources Department,
Japan Atomic Energy Agency
2-4 Shirakata Shirane, Tokai-mura, Naka-gun, Ibaraki-ken 319-1195 Japan
Tel +81-29-282-6387, Fax +81-29-282-5920

発表論文にみる研究所図書館の活動
— 日本原子力研究所図書館の場合 —

日本原子力研究開発機構研究技術情報部
池田 貴儀・羽原 正・石川 正・板橋 慶造・米澤 稔

(2007年3月26日受理)

日本原子力研究所図書館の半世紀にわたる図書館活動で312件の論文が生産された。これらの論文の一覧リストを作成するとともに、「総論」、「図書館機能」、「研究成果のとりまとめと普及」及び「国際情報流通」に区分し解説した。併せて主題索引、著者索引及び年表をとりまとめた。

**Review of Research Institute Library Activity through the Contributed Papers ;
The Case of the Japan Atomic Energy Research Institute Library**

Kiyoshi IKEDA, Tadashi HABARA, Masashi ISHIKAWA, Keizo ITABASHI
and Minoru YONEZAWA

Intellectual Resources Department
Japan Atomic Energy Agency
Tokai-mura, Naka-gun, Ibaraki-ken

(Received March 26, 2007)

The Japan Atomic Energy Research Institute (JAERI) Library had contributed 312 papers through the library activities in half-century. We made the bibliography of these papers as well as categorized them into "general", "library functions", "management and promotion of research results" and "international exchange of information" and explained them under the four categories. A subject index, an author index of these papers and chronology of JAERI library activities were also compiled for reference.

Keywords: Special Library, JAERI, Bibliography, Contributed Papers,
Library Functions, INIS, International Exchange of Information,
Research Results, Library Activities, Subject Index,
Author Index, Chronological Tables

目 次

はじめに	1
1. 日本原子力研究所図書館の活動	2
2. 発表論文の概要	3
2. 1 総論	3
2. 2 図書館機能	4
2. 3 研究成果のとりまとめと普及	5
2. 4 国際情報流通	5
3. まとめ	7
謝辞	8
参考文献	8
付録 1 発表論文	9
付録 2 主題索引	35
付録 3 著者索引	38
付録 4 原研図書館の半世紀；昭和 30 年（1955 年）～平成 17 年（2005 年）	41

Contents

Introduction	1
1. Activities of Japan Atomic Energy Research Institute Library	2
2. Summary of Contributed Papers	3
2. 1. General	3
2. 2. Library Functions	4
2. 3. Management and Promotion of Research Results	5
2. 4. International Exchange of Information	5
3. Conclusion	7
Acknowledgment	8
Reference	8
Appendix 1 List of Contributed Papers	9
Appendix 2 Subject Index	35
Appendix 3 Author Index	38
Appendix 4 Chronology of Japan Atomic Energy Research Institute Library Activities in Half-Century;1955～2005	41

Table Contents

Table 1 The Number of Contributed Papers by JAERI Library.....	2
Table 2 The Proportion of Contributed Papers According to the Category.....	3

はじめに

現在、日本国内には数多くの専門図書館が存在している。それらの図書館が所属する機関や対象とする主題は多岐に渡っている。『専門情報機関総覧 2006』には、専門図書館機能を持つ 1,747 館が記載されている。

では、専門図書館とは、どのような図書館なのか。専門図書館 (Special Library) は、もともと一般図書館 (General Library) の対語であった。一般図書館といった場合、多くは公共図書館のことを指している。Special Library は、以前は特殊図書館とも訳されていた。第二次世界大戦後、病院や刑務所の図書館を特殊図書館と呼び、専門図書館と区別する傾向が強まってきて、現在では、特殊図書館を除いた狭義の専門図書館の概念が定着したと言われている。専門図書館の定義をみると「組織の目的を追求する上で、そのメンバーやスタッフの情報要求を満たすため、営利企業、私法人、協会、政府機関あるいは、その他の特殊利益集団もしくは機関が設立し維持し運営する図書館」とある。つまり、「ある組織のもと」で設立、維持され、「特定主題」の資料を収集、整理、蓄積し、「特定の利用者」を対象として迅速に資料・情報を提供する図書館といえよう。

日本原子力研究所図書館（以下原研図書館と略す）は、専門図書館である。科学技術系の専門図書館であり、研究機関に属する専門図書館でもある。本報告は、原研図書館のこれまでの発表論文を整理し記録するとともに、発表論文を介して原研図書館の活動の概要を記述したものである。また、本報告は、原研図書館の活動を中心とりまとめた『科学技術図書館の現在と未来；日本原子力研究所図書館の現場から』¹⁾をまとめるにあたり、準備した資料をとりまとめたものである。

1. 日本原子力研究所図書館の活動

専門図書館における図書館活動は、図書館が機関（あるいは上部組織）に属する場合、その機関の目的及び使命を支援することに集約される。日本原子力研究所（以下原研と略す）は、原子力研究開発の遂行を目的に掲げており、原研図書館は、その研究開発を円滑かつ効率的に進めるための支援活動拠点の一つに位置づけられていた。原研は、1955年に財団法人として設立され、翌年に特殊法人に衣替えしている。原研図書館は、財団法人原研の設立とともに図書室として開設され、1959年の図書館建屋の完成を機に積極的な図書館活動を開始した。

原研図書館の特徴の一つは、研究者及び技術者への資料及び情報の提供を行う図書館機能にとどまらず、原研が生産する研究開発の成果をとりまとめて報知する機能を備えていたことである。この機能は、研究者及び技術者の学術誌等への論文投稿、学協会や国際会議等での口頭発表及び研究報告書類のとりまとめ、成果管理データベースの運用、成果の報知と普及等である。また、2つには、原子力平和利用の研究開発を推進するために国際的な文献情報データベースの提供を目指した国際原子力情報システム（International Nuclear Information System, 以下 INIS と略す）計画等の国際情報流通に係わる機能がある。INIS では、加盟各国が自国の文献情報を提供し運営機関である国際原子力機関（以下 IAEA と略す）に送付する。IAEA は、これらの情報を集約しインターネットあるいは CD-ROM 等で世界の利用者に提供する。原研図書館は、INIS 発足当初から日本を代表してこの計画に参加し、国内原子力情報の書誌情報等の作成・送付あるいは INIS 国内普及活動を行っている。つまり原研図書館は、本来の「図書館機能」に加えて「研究成果のとりまとめと普及」及び「国際情報流通」という3つの機能を持つ科学技術系研究所の専門図書館であった（2005年10月1日の原研と核燃料サイクル開発機構との統合により、原研図書館は、新たに独立行政法人である日本原子力研究開発機構図書館としてスタートした）。

原研図書館は、上記業務を進めるに際して行った業務の分析と改善、各機能の標準化、システムの開発・導入、英語データベースの作成・提供の経験等について論文を発表してきた。学協会誌、専門誌、会議録、原研研究報告書類、他機関の技術レポート等で公表されたこれらの論文は、半世紀で300件を超えており（Table 1）。

Table 1 The Number of Contributed Papers by JAERI Library

Categories	Journal Articles	Proceedings	Reports	Books	Total
No. of Items (%)	212 (68%)	77 (25%)	17 (5%)	6 (2%)	312

本編では、原研図書館の発表論文の全体像を把握できるように下記の通りとりまとめた。

- (1) 発表論文を原研図書館の業務にあわせて「総論」、「図書館機能」、「研究成果のとりまとめと普及」及び「国際情報流通」の4種に区分し、それぞれに係わる論文についての解説。
- (2) 発表論文の書誌事項（標題、著者、掲載資料、巻号、掲載年月、頁）を時系列に配置した一覧リスト。
- (3) 発表論文の主題索引及び著者索引。
- (4) 原研の設立から原子力二法人の統合までの原研図書館の変遷をとりまとめた年表。

2. 発表論文の概要

発表論文を「総論」、「図書館機能」、「研究成果のとりまとめと普及」及び「国際情報流通」に区分すると、各々の論文数は下記の通りである (Table 2)

Table 2 The Proportion of Contributed Papers According to the Category

Categories	General	Library Functions	Management and Promotion of Research Results	International Exchange of Information
No. of Items (%)	102 (33%)	79 (25%)	12 (4%)	119 (38%)

2. 1 総論

本カテゴリーには、「標準化」、「ワインバーグ報告」、「引用解析」、「文献量」等に係わる論文がある。初期の標準化の論文では、団体著者表示についての論文 (76) *が発表されている。当時明確でなかった国内の機関及び民間企業等の英語名表記について、原研図書館が編集していた「Nuclear Science Abstracts of Japan」から得られたデータをもとに基準（案）を提示した論文である。その後、日本人著者名の表記 (81, 223)、米連邦科学技術審議会科学情報委員会 (COSATI) の目録規則 (82)、国内学術誌掲載論文の英語表記 (172) についての調査結果等の論文が発表された。また、国内標準化に係わる論文もある。1969年に科学技術会議が「科学技術情報の全国的流通システム構想」(通称 NIST 構想) を打ち出し、その中で情報処理の標準化の必要性を指摘したことによって、旧科学技術庁が科学技術情報流通基準（以下 SIST と略す）の制定に取り組むことになる。SIST 制定のため設置された検討会等には原研職員が初期の頃から参加し基準制定に協力してきた。そこで制定された抄録記述 (114)、学術論文の構成とその要素 (227)、参照文献の書き方 (228) 等の基準案 8 件が共同発表されている。また、基準を実際のデータと比較した論文 (126) もまとめられている。

1960 年代に当時の米国大統領ジョン・F・ケネディが研究開発管理の効率向上が情報を流通させる機能にかかっているとして、大統領科学諮問委員会にその課題及び改善について諮問した。この諮問に対して 1963 年に委員会報告書「科学、政府、情報；情報伝達における科学技術界ならびに政府の責務」が提出された。この報告書は、とりまとめの中心人物であった米国オークリッジ研究所長 Alvin M. Weinberg の名をとり、「ワインバーグ報告」と呼ばれている。ワインバーグ報告は、図書館に対する厳しい批判が盛り込まれているとして米国内の専門図書館等から大きな反響があった。報告書の重要性に着目した原研図書館では、複数の職員が手分けして翻訳し図書館内で勉強会を行った。この翻訳資料は、1966 年に（財）日本ドクメンテーション協会の NIPDOK シリーズの最初の出版物 (32) として刊行された。図書館界からの反応に対し、Weinberg は、1964 年 6 月に米国専門図書館協議会で「ふたたび科学技術情報について」と題する講演を行い改めて見解を述べている。翻訳資料には、この講演内容も収録されている。翻訳資料以外にもワインバーグ報告について 2 件の論文 (24, 79) が発表されている。

* 第二章「発表論文の概要」で表示される引用は、第三章「発表論文」中の論文番号を表す。

引用解析に係わる論文では、1964年の資料の老化（21）についての論文が始まりである。以後、資料の寿命（22）、雑誌重要性の識別（47）、ブラットフォード法則の実証的研究（205）、文献老化モデルの検証（220）、日本原子力学会欧文誌の被引用状況（282）等の論文がとりまとめられている。

文献量については、国内での原子力文献生産数に関する論文がある。原子力論文の海外投稿についてのアンケート調査（174）及び原研研究報告書「日本の原子力情報；その量的把握と特徴」である。報告書には、日本で生産された原子力文献生産数（182, 183）及び国内の口頭発表生産数（184）についての報告が収録されている。

その他の論文としては、日本原子力学会年会における口頭発表の2回（1970年及び1988年）にわたる論文化追跡調査（80, 248）、学協会及び研究機関の著作権管理についてのアンケート調査（185, 214）がある。また、原子力分野の特徴ある資料である原子力レポート（39）及び米国原子力規制資料 DOCKET（280）についての論文、あるいは水素エネルギーに関する文献集（109）もある。国内外の科学技術専門図書館の紹介（例えば244, 245, 246）等も多い。

2. 2 図書館機能

図書館機能に関する発表論文は、①「資料の収集及び所蔵資料」、②「図書館業務での電子計算機処理」及び③「図書館サービス（利用者の動向を含む）」の三つに分けることができる。

資料の収集及び所蔵資料では、主に収集する範囲の決定や所蔵資料の解説等の論文が中心となる。収集範囲の決定では、過去の利用データの分析により定めるのが合理的であるとし、ブラッドフォード線の傾向性を利用する方法、コールが唱えるブラッドフォード線の傾斜と寿命を用いる方法及び収集費>相互貸借費から定める方法を提示した論文（74）がある。また、雑誌の利用頻度を調査し、購入停止等の選定に応用することも試みられた（210）。科学技術専門図書館が重点的に収集する資料に会議録がある。会議録は、非市販資料も多く収集に困難が伴うが需要の多い資料である。この会議録について収集から提供までの概要（312）、会議録の特徴（238, 294）及び会議録の調査法（36）の論文がまとめられている。また、収集した会議録の目録記述の検討（171）、会議録の提供を容易にするためにC.B.R./KWIC索引の開発（154）も行っている。C.B.R./KWIC索引は、①資料の配架位置を表示、②会議開催日；開催地名；会議名から検索可能、③索引と書誌の一体化等の特徴を有している。

図書館業務における電子計算機の利用は、最初、目録処理に適用された。洋書冊子体目録の作成（41）、和書冊子体目録の作成（42, 86）、目録記述の設計（56, 70）あるいはレポート目録作成システム（221）等の報告がある。その後、図書館業務全般へと広がり、雑誌の管理（45）、貸出業務の機械化（49）、収集・保管・貸出業務の機械化（64）、図書館業務の機械化（72）等が相次いで発表されている。板橋等は那珂研究所図書室でオフコンを利用した図書室管理（218）の経験をもとに、1984年から東海研究所図書館業務の総合電子計算機処理（図書館データ処理システム）の構築に取り組み、雑誌管理システム（230, 237）、図書管理・閲覧貸出システム（236, 247）等を開発した。これらの成果に対しては、1988年に（社）情報科学技術協会論文賞が授与されている。また、運用開始後も雑誌管理システムの機能拡張（295）等のシステムの改良が行われている。

図書館サービスでは、レファレンスサービス及び利用調査の論文がある。志知は、原研図書館で実戦的に行ったレファレンスサービスの事例をもとに、「レファレンス・オムニバス」を

1988年の1年間にわたり発表している（例えば249, 253, 254）。この連載では、利用者の研究テーマに係わる最新の文献を積極的に提供する手法の紹介が主要なテーマとなっている。利用調査では、図書貸出の実態調査（23）、技術情報利用に関する基礎調査（66, 68）、電子ジャーナル導入による利用動向調査（306, 309）等がある。また、原子力研究交流制度等を利用して、原研に滞在する外国人研究者の図書館利用調査（259）がある。その中で、専門分野の所蔵資料が充実している反面、辞書類等の基本図書については、東南アジア言語の資料の不足が指摘されている。

他には、原研図書館の初期に記述された原研図書館の計画と運用（5）、原研図書館の現状（6）等の論文がある。また、業務マニュアル作成の経験（188）、科学専門図書館の情報利用（107, 108）及び外国人研修生の受け入れ経験（311）についてもまとめられている。論文の標題から用語を自動識別して索引をつくる KWINEC 方式の文献処理の提案及び実用化（87, 88, 89）も行っている。1977年に原研図書館の活動に対し（財）日本ドクメンテーション協会優秀ドクメンテーション機関賞が授与されている。

2. 3 研究成果のとりまとめと普及

研究成果のとりまとめと普及に関するカテゴリーには、成果管理における電子計算機利用の論文がある。原研の研究成果は、毎年700～800件近い論文が投稿され、1980年代後半の時点で蓄積が20,000件に達していた。これらの成果は手作業により管理されていたが、研究成果の発表数の増加に伴いその処理に電子計算機が導入された。こうして設計・開発されたのが大型計算機を用いた所内研究成果データベース（以下JASTと略す）（242）である。JASTの特徴は、入力したデータを活用し、英文報知誌「Technical Publications by JAERI Staff」の版下作成機能を有することである。

その後、研究成果の総合的管理と有効利用を図るために、1988年JASTと同じく大型計算機をベースに原研研究成果情報システム（JAERI Originated Literature Information System, 以下JOLISと略す）を開発（290）した。1999年まで運用されたJOLISの特徴は、①成果報知資料の版下原稿作成、②課室別成果一覧リストの作成、③成果統計資料の作成及び④検索サービスの4つの機能を有していることである。

JOLISの運用経験を活かし1998年からJOLISⅡの開発に着手して2000年より運用を開始した（310）。JOLISⅡは、従来の大型計算機からUNIXへのベースを変更し、JOLISの機能に加えて「研究成果の電子申請」と「研究成果情報（研究成果の概要及び研究報告書類全文）のインターネットによる発信」の機能を持つ。研究成果の電子申請の導入により、成果申請手続きの効率化が進むとともに、取得データ項目の充実が図られた。また、研究成果情報のインターネットによる発信に対して、国内外から年間約66万4千件（2003年4月～2004年3月）のアクセスを得ている。

その他の論文として、研究所における研究成果の管理（10）、研究成果の発表状況（258）、原子力関係術語の国語表記の実態調査（54, 91）等がある。

2. 4 國際情報流通

国際情報流通に関する論文は、INISに係わる発表がほとんどを占める。これらの論文は、①INISの動向や活動報告、②INISデータベースの入力処理及び③INISデータベースの出力利用

に区分される。また、④INIS 業務に関連して展開した国内学協会誌に対するキーワード付与要請活動に係わる論文及び⑤海外向けの国内口頭発表報知誌「Nuclear Science Information of Japan ; Oral Presentation」(以下 NSIJ-OP と略す)についての論文があり、これら 5 つのサブカテゴリーに係わる論文群を中心に解説する。

INIS の動向及び活動報告としては、INIS 計画の構想、概要、定期的な活動状況等について 30 件を越える論文が発表（例えば 44, 62, 85, 177, 187）されている。

原研図書館が日本を代表して INIS に参加することになり、最初に取り組んだのはデータ入力処理の課題であった。これに関する論文として日本が入力するデータの特性（152）、索引語付与の定量解析（106）、入力処理時間の分析（167）等が発表されている。特に、日本から入力するデータの精度向上のため行った小松原等による書誌情報のインプット時のエラー発生の解析（95）及びミススペル自動修正プログラムの開発（115, 147）の論文には、INIS の SDI 提供システムの構築（155）等の論文とともに、1983 年に（財）日本ドクメンテーション協会学術賞が授与されている。また、INIS へ提供する非市販資料全文のマイクロフィッシュ作成（163, 179）及び INIS データベースの収録性の評価（201, 207, 219）の論文がある。

INIS の出力処理に関する論文では、先に述べた小松原等による検索提供システムの構築についての論文の他、海老沼等による自動ランキング法の評価（202）、簡易自動文献探索方法（216）、自動的重みづけ法の開発（169, 170, 180）等の論文がある。これらの先進的な検索手法の開発への取り組みで得られた成果に対して、1983 年に日本科学技術情報センター丹羽賞学術賞が授与された。また、INIS データベースの普及活動（270）及び INIS のポータルサイト（304）の論文もある。

INIS 等の文献データベースの入力処理業務において、多くの時間及び労力が費やされる作業に索引語付与（インデクシング）がある。この作業の迅速化及び精度向上を図るため、自著論文への著者自然語キーワード付与（以下キーワード付与と略す）の要請活動に係わる論文が発表されている。最初、キーワード付与が索引語付与作業において有用であることを実証（135, 136）するとともに、国内誌のキーワード付与状況（144）について調査した。ついでキーワード付与手順書等（146）を作成して国内学協会に対し協力要請（193）を行った。その結果、キーワード付与の協力を得られた学協会誌の実施状況についても調査している。これらの活動の総合報告（206）は、1982 年の国際ドキュメンテーション連盟（FID）大会（香港）において行われた。本報告を含めて要請活動に係わる発表は計 8 論文を数える。INIS の長年にわたる国内活動に対しては、1997 年に日本原子力学会貢献賞が授与されている。

NSIJ-OP は、口頭発表情報が研究開発の進捗情報としても有効な情報であることに着目し、原子力関連学協会における口頭発表情情報を英語データで編集し刊行された報知誌である。NSIJ-OP の概要及び有効性について 3 論文（243, 251, 261）が発表されている。NSIJ-OP は当初冊子体で発行されていたが、現在は CD-ROM による発行に変更されている。また、NSIJ-OP に収録されているデータは、日本原子力研究開発機構内でオンラインシステムにより提供されている。

原子力分野の INIS と同様の目的を担うエネルギー分野の計画に、国際エネルギー機関（IEA）が運営する国際エネルギーデータ交換計画（以下 ETDE と略す）がある。原研図書館は、この計画に 1987 年から 2003 年まで参加し ETDE の運営に協力した。これら ETDE に係わる論文（250, 286, 302）も発表されている。

3. まとめ

論文発表を含む原研図書館の活発な活動の要因として、親機関である原研の研究環境を業務に利用できたこと、INIS 計画等の情報処理の国際協力事業への参加による最先端の情報処理の知識と経験の習得できたこと及び原研の知的財産である研究開発の成果を図書館で扱ったことを挙げることができよう。

研究環境における利点として、例えば電子計算機の利用環境がある。原研では昭和 30 年代後半に、研究支援用に大型計算機が導入された。この計算機はその一部を事務計算処理にも充てており、そのなかに図書館の業務処理に利用することが可能となった。このため、他の専門図書館に先駆けたて電子計算機の利用を迎えることができた。昭和 40 年前後には、電子計算機が資料管理、目録処理、貸出管理及び利用統計等に活用され、いち早く図書館機能の効率化的運用に貢献している。また、原研は研究者集団抱えていたがこれらの研究者が図書館の利用者であるばかりでなく図書館の潜在的な支援部隊としての役割も果たしてくれた。研究についての解説、最新の学術資料の刊行あるいは重要な国際会議についての情報の提供、国内外の研究機関及びその図書館についての情報など有益な情報の提供元となり、原研図書館を成長させてくれた。多くの研究者に有用な情報源の集積場として図書館を育てて行こうとする気風があり、図書館を叱咤激励し積極的に支援してくれたことも大きい。

昭和 40 年代半ばからの INIS 計画の業務遂行で先端的な技術処理を数多く経験することができたことも原研図書館の活発化の一因となっている。例えば、書誌記述及び抄録記述作成をワークシート方式から磁気テープ方式への切り替え、原文献送付での冊子体からマイクロフィッシャーへの変更等への対応及び INIS データベース検索サービスにおける検索効率の向上への取り組みを挙げることができる。また、データベース作成のインデキシング付与の精度を高めるために取り組んだ国内学術誌への著者付与キーワード要請活動の展開も図書館職員の業務への取り組みをより励ます結果となった。これらの INIS 計画業務での課題の達成は、図書館内の他の業務処理に技術移転されるとともに得られた経験からの提言が科学技術情報基準 (SIST) 及び日本国規格 (JIS) の情報処理の規格に採用されることも多かった。

原研図書館が草創期から研究成果管理業務を担当していたこともメリットとして挙げられる。成果という知的財産のとりまとめと普及を図書館が担うことにより、図書館が持つ情報処理技術を成果管理に有効に利用できた。また、研究所図書館にとって、情報の収集と提供（図書館機能）の前段階にある情報の発生・把握及び普及の現場での業務担当は情報が生まれ伝播されるするプロセスを学ぶことができる。成果と言う情報を扱うことにより、図書館機能及び国際情報処理のいずれの業務の遂行にも有意な影響をもたらしていたと考えられる。

謝辞

本原稿の第3章「発表論文」、付録1「主題索引」及び付録2「著者索引」をとりまとめるにあたり、情報メディア管理課収集係の平根聰美氏、三田寺貴子氏、山本由起子氏、横堀尚子氏、松本渚氏の協力を得た。記して感謝する。

参考文献

- 1) 仲本秀四郎編 : 科学技術図書館の現在と未来 ; 日本原子力研究所図書館の現場から, 勉誠出版, (2007.3.30).

付録1 発表論文

1. 年代順に配列した。
2. 発表論文は標題、著者名、掲載資料名、巻号、発行年月、頁の順に記載した。
3. 著者の所属が原研図書館以外の場合は、著者名の末尾に*を付した。
4. 標題末尾のカッコ内英字は、下記のカテゴリーを示す。
 - (A) 総論
 - (B) 図書館機能
 - (C) 研究成果の普及ととりまとめ
 - (D) 國際情報流通

1956年

- 1 原子炉関係文献の紹介 (A)
長山泰介
日本機械学会誌, Vol.59, No.449, 1956年6月, pp.519-520

1958年

- 2 雑誌整理棚についての一考案 (B)
岸並昭
月刊 JICST, Vol.1, No.7, 1958年7月, pp.11-12
- 3 原子力とドキュメンテーション (A)
長山泰介
月刊 JICST, Vol.1, No.9, 1958年9月, pp.8-10

1959年

- 4 専門図書館の設計 (A)
岸並昭
ドキュメンテーション懇談会会報, No.8, 1959年10月, pp.13-20
- 5 原研図書館の計画と運用 (B)
長山泰介
ドキュメンテーション懇談会会報, No.8, 1959年10月, pp.21-25

1960年

- 6 日本原子力研究所図書館の現状 (B)
村尾成允
びぶろす, Vol.11, No.12, 1960年12月, pp.3-9, 20

1962年

- 7 目録カードの複製について (B)
稻川恵子
図書館雑誌, Vol.56, No.3, 1962年3月, pp.200-202

- 8 原研におけるほんやくサービス (C)
長山泰介
ドキュメンテーション懇談会会報, No.16, 1962年6月, pp.17-20
- 9 ソ連邦における科学専門図書館 (A)
O. S. Chubarian (著) *; 志知大策 (訳)
ソ連邦における科学専門図書館, 1962年8月, 50p.

1963年

- 10 研究所での研究成果の管理 (C)
長山泰介
びぶろす, Vol.14, No.1, 1963年1月, pp.8-13
- 11 雑誌論文はどのように利用されるか; 複写統計についての一考察 (B)
長山泰介; 河野稔; 田頭満雄
ドクメンテーション研究, Vol.13, No.1/2, 1963年4月, pp.1-4
- 12 日米抄録および索引会議 (A)
長山泰介
ドクメンテーション研究, Vol.13, No.4/5, 1963年11月, pp.65-74
- 13 FID の活動の強化の提案 (A)
長山泰介 (訳); 津田信義 (訳)
ドクメンテーション研究, Vol.13, No.6, 1963年12月, pp.129-134, 155
- 14 1963年のFIDの活動 (A)
長山泰介 (訳); 長谷川洋子 (訳)
ドクメンテーション研究, Vol.13, No.6, 1963年12月, pp.147-149

1964年

- 15 資料管理機械化の実例; 図書及び雑誌管理業務への応用 (B)
土生健
びぶろす, Vol.15, No.8, 1964年, pp.3-18
- 16 ドクメンテーション実用講座, 19; 発生情報の整理と伝達 (C)
長山泰介
情報管理, Vol.7, No.5, 1964年, pp.3-18
- 17 FID研究委員会の活動 (A)
長山泰介 (訳)
ドクメンテーション研究, Vol.14, No.3, 1964年11月, pp.39-40
- 18 ドクメンテーション分科会の活動 (A)
長山泰介 (訳)
ドクメンテーション研究, Vol.14, No.3, 1964年11月, pp.41-42
- 19 原子力情報の国際交流 (D)
長山泰介; 海老沼幸夫
第1回ドキュメンテーション研究集会予稿集, 1964年11月, pp.37-44
- 20 日本原子力研究所における有効情報の調査 (B)
仲本秀四郎
第1回ドキュメンテーション研究集会予稿集, 1964年11月, pp.67-72

21 資料の老化 (A)

仲本秀四郎

ドクメンテーション研究, Vol.14, No.6, 1964年12月, pp.123-128

1965年

22 資料の寿命 (A)

仲本秀四郎

情報管理, Vol.8, No.15, 1965年, pp.32-35

23 原研図書館における図書貸出の実態調査 (B)

仲本秀四郎

JAERI-memo 1918 (公開), 1965年, pp.1-17

24 ワインバーグ・レポート (A)

長山泰介

日本原子力学会誌, Vol.7, No.4, 1965年4月, pp.221-222

25 ゼロックス 914 による目録カードの複製について; 日本原子力研究所東海研究所における実施例 (B)

土生健

ドクメンテーション研究, Vol.15, No.4, 1965年8月, pp.105-108

1966年

26 ユーラトム・キーワード方式の試験的実施, 1; EUR シソーラスによる情報の標示 (D)

長山泰介; 栗山実; 田辺俊勝; 長谷川洋子

第2回ドキュメンテーション研究集会発表論文集, 1966年1月, pp.33-41

27 国内原子力関係学協会誌の流通解析 (A)

海老沼幸夫; 川崎八重子; 矢島圭子

第2回ドキュメンテーション研究集会発表論文集, 1966年1月, pp.173-178

28 アメリカにおける情報処理の機械化を観察して; 情報管理者の立場から (A)

長山泰介

情報管理, Vol.8, No.13, 1966年1月, pp.13-15

29 アメリカにおける情報処理機械化の現状 (A)

Eugene Pronko (講演) *; 長山泰介 (訳); 森賢造 (訳)

ドクメンテーション研究, Vol.16, No.1, 1966年2月, pp.7-15

30 資料の老化モデル (A)

仲本秀四郎

ドクメンテーション研究, Vol.16, No.1, 1966年2月, pp.16-20

31 ユーラトム・プロジェクトと情報の国際協力 (D)

長山泰介

情報管理, Vol.9, No.5, 1966年8月, pp.243-249

32 科学と政府と情報; 米国政府に対するワインバーグ報告 (A)

アメリカ大統領科学諮問委員会 (編); 日本原子力研究所技術情報部 (訳)

科学と政府と情報; 米国政府に対するワインバーグ報告, NIPDOK シリーズ1, 1966年10月, 50p.

- 33 現代社会における科学情報の重要性； 第11回太平洋学術会議より (A)
Waterman, Alan T. (講演) * ; 森賢造 (訳) ; 栗山実 (訳)
ドクメンテーション研究, Vol.16, No.5, 1966年10月, pp.125-129
- 34 FIDの活動報告書 1965 (A)
栗山実 (訳) ; 稲野辺敬義 (訳)
ドクメンテーション研究, Vol.16, No.5, 1966年10月, pp.132-136

1967年

- 35 IAEA「国際原子力情報システムの会議」に出席して (D)
長山泰介
日本原子力学会誌, Vol.9, No.1, 1967年1月, pp.38-39
- 36 国際科学会議とその資料の調査法 (B)
志知大策 ; 清水昭郎 ; 成井恵子
第3回ドキュメンテーション研究集会発表論文集, 1967年2月, pp.1-6
- 37 機能分析に基づく情報施設の計画； 日本原子力研究所の場合を中心として (B)
岸並昭
第3回ドキュメンテーション研究集会発表論文集, 1967年2月, pp.7-15
- 38 Nuclear Science Abstracts of Japanによる国内原子力発表論文の傾向調査 (D)
田辺俊勝 ; 高丸多賀子
第3回ドキュメンテーション研究集会発表論文集, 1967年2月, pp.51-54
- 39 原子力情報におけるレポートの役割, I (A)
津田信義
第3回ドキュメンテーション研究集会発表論文集, 1967年2月, pp.55-58
- 40 ユーラトム・キーワード方式の試験的実施, II ; EURシソーラスによる情報の抄録 (A)
栗山実 ; 矢島圭子 ; 長谷川洋子
第3回ドキュメンテーション研究集会発表論文集, 1967年2月, pp.151-155
- 41 電子計算機による洋書冊子体目録の作成, I (B)
古谷実 ; 清水昭郎 ; 平川隆*
第3回ドキュメンテーション研究集会発表論文集, 1967年2月, pp.191-198
- 42 電子計算機による和書冊子体目録の作成, I (B)
古谷実 ; 清水昭郎 ; 平川隆*
第3回ドキュメンテーション研究集会発表論文集, 1967年2月, pp.199-205
- 43 FIDの新しい計画 (A)
矢島圭子 (訳)
ドクメンテーション研究, Vol.17, No.1, 1967年2月, pp.1-3, 6
- 44 国際原子力情報システム (D)
長山泰介
ドクメンテーション研究, Vol.17, No.2, 1967年2月, pp.48-52
- 45 日本原子力研究所におけるコンピュータによる雑誌の管理 (B)
岸並昭
雑誌の管理と利用, 1967年4月, pp.556-575

- 46 ソ連邦における科学技術図書館と情報機関の現状と若干の問題点 (A)
志知大策
現代の図書館, Vol.5, No.2, 1967年6月, pp.114-120
- 47 化学雑誌の重要性の識別 (A)
仲本秀四郎
情報管理, Vol.10, No.3, 1967年6月, pp.116-121
- 48 引用; 参考文献の計数 (A)
仲本秀四郎
情報管理, Vol.10, No.5, 1967年9月, pp.262-269
- 49 貸出業務の機械化 (B)
津田信義
ドクメンテーション研究, Vol.17, No.5, 1967年10月, pp.129-135
- 50 原子力情報組織の再編成 INIS の計画をめぐって (D)
長山泰介
JNDC ニュース, No.6, 1967年11月, pp.15-16

1968年

- 51 議論より使ってみること (A)
古谷実
専門図書館, No.38, 1968年, pp.8-9
- 52 情報戦争はあるか? (A)
栗山実
専門図書館, No.38, 1968年, pp.10-11
- 53 情報の危機をもたらすもの (A)
Helmut Arntz (講演) * ; 長山泰介(訳)
ドクメンテーション研究, Vol.18, No.1, 1968年1月, pp.2-5
- 54 原子力関係術語の国語表記の実態 (C)
栗山実 ; 矢島圭子 ; 長谷川洋子
第4回ドキュメンテーション研究集会発表論文集, 1968年2月, pp.41-45
- 55 ユーラトム・キーワード方式の試験的実施, III ; Indexing の実際と今後の課題 (D)
栗山実 ; 矢島圭子 ; 長谷川洋子
第4回ドキュメンテーション研究集会発表論文集, 1968年2月, pp.75-78
- 56 電子計算機によって作成する目録の記述の設計に関する一考察 ; Serials を中心として (B)
成井恵子
第4回ドキュメンテーション研究集会発表論文集, 1968年2月, pp.107-114
- 57 原子力ドキュメンテーションの現状と展望 (A)
長山泰介
日本原子力学会誌, Vol.10, No.4, 1968年4月, pp.190-197
- 58 『情報管理』はこれでよいか, 1 ; 人間この微妙なるもの (A)
長山泰介 ; 小野村仁* ; 小林一作*
情報科学, Vol.4, No.5, 1968年5月, pp.40-61

- 59 機械化された新しい抄録誌 index de la literature nucleaire francaise (A)
 古谷実；林尚志
 ドクメンテーション研究, Vol.18, No.6, 1968年6月, pp.169-172, 178
- 60 『情報管理』はこれでよいか, 2; 人間この微妙なるもの (A)
 長山泰介；小野村仁*；小林一作*
 情報科学, Vol.4, No.6/7, 1968年7月, pp.60-76
- 61 科学と科学者と情報 (A)
 G. G. Vorobiev (著) * ; 志知大策 (訳)
 ドクメンテーション研究, Vol.18, No.8, 1968年8月, pp.248-254

1969年

- 62 國際原子力情報システム (INIS) の概要 (D)
 長山泰介
 情報管理, Vol.12, No.2, 1969年, pp.70-79
- 63 電子計算機による索引および管理統計の作成 (B)
 古谷実
 ドクメンテーション研究, Vol.19, No.2, 1969年2月, pp.37-43
- 64 日本原子力研究所図書館における収集・保管・貸出業務の機械化；実施例として (B)
 土生健
 図書館雑誌, Vol.63, No.8, 1969年3月, pp.374-377
- 65 情報サービスの動的指標についての一考察；利用者統計を基にした雑誌サービス基準 (B)
 津田信義；清水昭郎；日埜衆司；羽原正
 第5回情報科学技術研究集会発表論文集, 1969年4月, pp.29-34
- 66 原子力研究者の情報利用の実態に関する基礎調査 (B)
 志知大策；林尚志；古谷実；高橋喜美枝；小松原康敏
 第5回情報科学技術研究集会発表論文集, 1969年4月, pp.53-61
- 67 國際流通から見た日本語雑誌の書誌標示 (A)
 長山泰介；成井恵子；羽原多賀子
 第5回情報科学技術研究集会発表論文集, 1969年4月, pp.111-115
- 68 日本原子力研究所における技術情報の利用に関する基礎調査の概要 (B)
 林尚志
 ドクメンテーション研究, Vol.19, No.4, 1969年4月, pp.101-109
- 69 小規模で多面的なマイクロフィルムの導入経験 (C)
 栗山実
 月刊マイクロ写真, Vol.7, No.6, 1969年6月, pp.28-30
- 70 電子計算機の利用を前提として目録記述の問題点；日本原子力研究所の事例を中心として (B)
 成井恵子；古谷実
 現代の図書館, Vol.7, No.2, 1969年6月, pp.72-84
- 71 ユーラトム・シソーラス (英和対照リスト) (D),
 技術情報部情報資料課
 JAERI-memo 3608 (公開), 1969年6月, 134p.

72 図書館業務の機械化（B）

長山泰介

ドクメンテーション研究, Vol.19, No.10, 1969年10月, pp.325-329

1970年

- 73 Features of the Japanese nuclear literature revealed in the preparation of Nuclear Science Abstracts of Japan (D)
古谷実; 田辺俊勝; 日埜衆司
Handling of Nuclear Information, Proc. of a Symp., 1970年, pp.417-426
- 74 資料の収集範囲の決定（B）
仲本秀四郎
ドクメンテーション研究, Vol.20, No.1, 1970年1月, pp.5-9
- 75 特集, 技術新時代をリードする NIST 計画, 4; 日本におけるクリアリング機能 (A)
長山泰介
日本の科学と技術, Vol.11, No.3, 1970年3月, pp.36-40
- 76 日本における団体著者表示の標準化に関する一考察 (A)
成井恵子; 小松原康敏; 羽原多賀子
第6回情報科学技術研究集会発表論文集, 1970年3月, pp.87-94
- 77 ユーラトム原子力情報システムにおける探索式の確定ならびに式の統計的特性 (B)
海老沼幸夫
ドクメンテーション研究, Vol.20, No.4, 1970年4月, pp.97-107
- 78 昭和44年度技術士本試験, 生産管理分門(科学技術情報管理)問題と解説 (A)
長山泰介
情報管理, Vol.13, No.2, 1970年5月, pp.132-134
- 79 NIST とワインバーグ報告 (A)
栗山實
ドクメンテーション研究, Vol.20, No.6, 1970年6月, pp.164-168
- 80 「年会」口頭発表の追跡調査 (A)
古谷実
日本原子力学会誌, Vol.12, No.7, 1970年7月, pp.406-409
- 81 著者索引と日本人名の省略 (A)
日埜衆司
ドクメンテーション研究, Vol.20, No.9, 1970年9月, pp.271-278
- 82 COSATI 目録規則について (B)
成井恵子; 小松原康敏
図書館界, Vol.22, No.3, 1970年9月, pp.107-111
- 83 IR 講座, 7; 言語による整合索引 (A)
長山泰介
情報管理, Vol.13, No.9, 1970年12月, pp.590-600

1971年

- 84 Nuclear Science Abstracts の使い方と INIS の動向 (D)
羽原正；古谷実
医学図書館, Vol.18, No.2, 1971年, pp.199-206
- 85 國際原子力情報システムの動向 (D)
古谷実
原子力工業, Vol.17, No.1, 1971年1月, pp.50-53
- 86 電子計算機における和書冊子体目録の作成, II ; カナ文字目録の実用性について (B)
小松原康敏；清水昭郎；成井恵子
第7回情報科学技術研究集会発表論文集, 1971年1月, pp.11-17
- 87 英語を母国語としない国における KWIC の提案 ; KWINEC による文献処理, 1 (B)
栗山実；長谷川洋子；古谷実；日埜衆司
第7回情報科学技術研究集会発表論文集, 1971年1月, pp.247-251
- 88 キーワードのみを英語で表す標題の作成 ; KWINEC による文献処理, 2 (B)
日埜衆司；栗山実
第7回情報科学技術研究集会発表論文集, 1971年1月, pp.253-260
- 89 英カナまじり出力のシステムとその試験的実施 ; KWINEC による文献処理, 3 (B)
古谷実；稻見泰生*；小沼吉男*；山田孝行*
第7回情報科学技術研究集会発表論文集, 1971年1月, pp.261-268
- 90 計量科学論的方法による日本の原子力科学者集団の構造研究 (A)
志知大策；羽原正；長山泰介
第7回情報科学技術研究集会発表論文集, 1971年1月, pp.281-292
- 91 原子力関係術語の国語表記の実態, 2 (C)
長谷川洋子；栗山実
第7回情報科学技術研究集会発表論文集, 1971年1月, pp.337-344
- 92 INIS シソーラスの構造とディスクリプター・ファイルの自動チェック (D)
日埜衆司
ドクメンテーション研究, Vol.21, No.5, 1971年5月, pp.145-151
- 93 國際原子力情報システムの活動 (D)
小松原康敏
ドキュメンテーションサービス, No.7, 1971年6月, pp.1-3
- 94 INIS の本部および原研におけるプログレス・リポート, No. 1 ; 1970年4月1日～
1971年5月1日 (D)
技術情報部
JAERI-M 4649, 1971年12月, 21p.

1972年

- 95 書誌情報のインプット時におけるエラーの発生 (D)
小松原康敏；古谷実；日埜衆司
第8回情報科学技術研究集会発表論文集, 1972年1月, pp.311-317

- 96 原研のマイクロフィッシュシステム, 1; 技術レポートのマイクロフィッシュ化について (D)
 羽原正 ; 大川隆
 第 8 回情報科学技術研究集会発表論文集, 1972 年 1 月, pp.219-226
- 97 原研のマイクロフィッシュシステム, 2; マイクロフィッシュの Heading の作成 (D)
 日埜衆司 ; 長谷川洋子 ; 羽原多賀子
 第 8 回情報科学技術研究集会発表論文集, 1972 年 1 月, pp.227-233
- 98 原研のマイクロフィッシュシステム, 3; マイクロフィッシュ形態による原子力関係技術レポートの提供システム (D)
 成井恵子 ; 羽原正 ; 土生健
 第 8 回情報科学技術研究集会発表論文集, 1972 年 1 月, pp.235-242
- 99 National Network of INIS in JAPAN (D)
 長山泰介 ; 志知大策
 Peaceful Uses of Atomic Energy, Vol.1, 1972 年 6 月, pp.731-739

1973 年

- 100 The computer systems and programs for INIS in JAERI (D)
 稲見泰生* ; 古谷実
 IAEA-156, Vol.156, 1973 年, pp.101-110
- 101 離陸する国際原子力情報システム INIS (D)
 古谷実
 科学技術文献サービス, No.35, 1973 年, pp.1-8
- 102 国際原子力情報システム (INIS) (D)
 柴田長夫
 Radioisotopes, Vol.22, No.1, 1973 年 1 月, pp.53-59
- 103 日本原子力研究所技術情報部における図書資料管理機械化の現状; 第一次図書資料管理機械化報告書 (B)
 技術情報部図書課
 JAERI-M 5144, 1973 年 2 月, 71p.
- 104 ソ連における科学技術情報用語事典の各版について (A)
 志知大策
 窓, No.4, 1973 年 4 月, pp.42-43
- 105 INIS プログレス・リポート, 2; 1971 年 4 月～1973 年 3 月 (D)
 技術情報部
 JAERI-M 5379, 1973 年 8 月, 24p.
- 106 INIS におけるインデクシング傾向の定量的解析 (D)
 小松原康敏
 ドクメンテーション研究, Vol.23, No.9, 1973 年 9 月, pp.287-293
- 107 情報資料の利用と提供, その 1 ; 科学専門図書館の場合 (総論) (B)
 志知大策
 ドクメンテーション研究, Vol.23, No.10, 1973 年 10 月, pp.345-351

- 108 情報資料の利用と提供, その2; 科学専門図書館の場合 (各論) (B)
志知大策
ドクメンテーション研究, Vol.23, No.11, 1973年11月, pp.385-391

1974年

- 109 世界の水素研究に関する主な文献総集 (A)
志知大策
水素エネルギー・システムの開発, 1974年, pp.484-532
- 110 科学の発展と学会誌の役割 (A)
志知大策
自然, 1974年3月, pp.80-81
- 111 専門分野における国際的な学術情報処理システムの動向; INIS (国際原子力情報システム) の場合 (D)
長山泰介
学術月報, Vol.27, No.3, 1974年6月, pp.27-31
- 112 INIS 磁気テープを用いた会議文献情報カレントサービスの試み (D)
古谷実; 日埜衆司
ドクメンテーション研究, Vol.24, No.9, 1974年9月, pp.343-348
- 113 シソーラス型デスクリプタの主題標目への適用の可能性 (D)
日埜衆司
ドクメンテーション研究, Vol.24, No.10, 1974年10月, pp.419-423

1975年

- 114 抄録記述技術基準案について (A)
長山泰介; 大井正一*; 太田泰弘*; 佐々木敏雄*; 竹内寿*; 溝口歌子*
第11回情報科学技術研究集会発表論文集, 1975年2月, pp.15-21
- 115 ミスペルデスクリプターの自動修正の試み (D)
小松原康敏
ドクメンテーション研究, Vol.25, No.4, 1975年4月, pp.157-165
- 116 電算機を用いる文献検索; そのしくみとサービス・システム (D)
海老沼幸夫
Isotope News, No.252, 1975年7月, pp.8-9
- 117 INIS プログレス・リポート, No.3; 1973年4月~1975年3月 (D)
海老沼幸夫
JAERI-M 6197, 1975年7月, 33p.
- 118 ドルジュバ村の四日間 (D)
海老沼幸夫
ドクメンテーション研究, Vol.25, No.7, 1975年7月, pp.293-298
- 119 講座, 文献調査法, 5; 原子力 (B)
志知大策
情報管理, Vol.18, No.5, 1975年8月, pp.412-422

- 120 原子力抄録誌 Nuclear Science Abstracts における雑誌論文採録頻度の Bradford 解析と収集雑誌の選定 (B)

成井恵子

ドクメンテーション研究, Vol.25, No.8, 1975年8月, p.348

- 121 Development of the Mechanized Information Processing Systems in JAPAN for INIS (D)

大森栄一

The 4th Consultative Meeting of INIS Liaison Officers, 1975年10月, p.16

1976年

- 122 保健物理分野の文献調査法, 1; 原研図書館の複写利用を前提として (B)

志知大策

保健物理, Vol.11, No.3, 1976年, pp.217-226

- 123 保健物理分野の文献調査法, 2; 2次資料の利用と文献調査の実際 (B)

志知大策

保健物理, Vol.11, No.4, 1976年, pp.289-302

- 124 NSA の廃刊と INIS の抄録の発行 (D)

海老沼幸夫

日本原子力学会誌, Vol.18, No.2, 1976年2月, pp.103-104

- 125 書誌的情報の記述に関する基準案; 参照文献の書誌記述 (A)

大井正一*; 上田修一*; 尾川多恵子*; 草間基*; 小松原康敏

第12回情報科学技術研究集会発表論文集, 1976年3月, pp.21-28

- 126 原子力分野における抄録の特性; 「抄録作成に関する基準」との対比を中心として (A)

高橋智子; 古谷実

第12回情報科学技術研究集会発表論文集, 1976年3月, pp.29-34

- 127 ディスクリプタを用いた検索システムに与えるリンクと Upposting の効果 (D)

日埜衆司; 石川正

第12回情報科学技術研究集会発表論文集, 1976年3月, pp.215-223

- 128 NSA から INIS へ; 文献情報システムの世代交替 (D)

大森栄一; 古谷実

原子力工業, Vol.22, No.4, 1976年4月, pp.42-48

- 129 INIS 利用への招待; 主題による検索を中心として (D)

海老沼幸夫

放射線科学, Vol.19, No.6, 1976年6月, pp.106-112

- 130 重要語の文献情報処理への効用とその選定上の留意点 (D)

三島良績*; 大井正一*; 海老沼幸夫

日本原子力学会誌, Vol.18, No.12, 1976年12月, pp.760-766

1977年

- 131 原子力レポートの積極的収集と提供; 日本原子力研究所技術情報部の実務経験から (B)

志知大策; 羽原正

ドクメンテーション研究, Vol.27, No.1, 1977年1月, pp.2-7

- 132 検索式の修正における検索語評価リストの活用 (D)
 小松原康敏；高橋智子；日埜衆司
 第 13 回情報科学技術研究集会発表論文集, 1977 年 2 月, pp.83-93
- 133 英文書誌情報の入力時における発生エラーについて (D)
 成井恵子；横尾宏；井沢三千代；三浦勇
 第 13 回情報科学技術研究集会発表論文集, 1977 年 2 月, pp.111-119
- 134 書誌的情報の記述に関する基準 (A)
 大井正一*；上田修一*；尾川多恵子*；草間基*；小松原康敏；寺村由比子*
 第 13 回情報科学技術研究集会発表論文集, 1977 年 2 月, pp.95-103
- 135 著者付与重要語の INIS インデクシングに対する有用性 (D)
 横尾宏；高橋智子；羽原正
 ドクメンテーション研究, Vol.27, No.2, 1977 年 2 月, pp.45-54
- 136 著者による重要語付与への勧め (D)
 海老沼幸夫
 保健物理, Vol.12, No.2, 1977 年 2 月, pp.127-134
- 137 科学技術情報の有効な利用法 (A)
 塚田孜*；志知大策；植木英吉*；桜井宣隆*；大井正一*
 情報管理, Vol.19, No.11, 1977 年 2 月, pp.813-826
- 138 わが図書館を語る, 20 (B)
 志知大策
 窓, Vol.20, 1977 年 3 月, pp.52-55
- 139 日本原子力研究所技術情報部におけるマイクロ資料の利用と作成 (B)
 津田信義；羽原正
 月刊マイクロ写真, Vol.16, No.7, 1977 年 7 月, pp.14-24,46
- 140 講座シソーラス, 4 ; INIS シソーラス (D)
 日埜衆司
 情報管理, Vol.20, No.4, 1977 年 7 月, pp.297-304
- 141 INIS プログレス・リポート, No.4 ; 1975 年 4 月～1977 年 3 月 (D)
 技術情報部
 JAERI-M 7176, 1977 年 7 月, 54p.
- 142 講座シソーラス, 5 ; ERDA シソーラス (D)
 海老沼幸夫
 情報管理, Vol.20, No.5, 1977 年 8 月, pp.376-387
- 143 かた・シリーズ, 14 ; へんな文献の搜しかた (B)
 志知大策
 ドクメンテーション研究, Vol.27, No.8, 1977 年 8 月, pp.375-380

1978 年

- 144 国内学術誌のキーワード付与傾向 (D)
 海老沼幸夫
 1978 年原子力総合シンポジウム予稿集, 1978 年, pp.37-39

- 145 原子力分野におけるマイクロ写真利用の現状と将来；マイクロフィッシュの利用を中心として (A)
羽原正
専門図書館, No.74, 1978年, pp.79-85
- 146 国内学術雑誌, テクニカル・レポートのキーワード付与制；現況と導入上の留意点 (D)
海老沼幸夫; 横尾宏
ドクメンテーション研究, Vol.28, No.1, 1978年1月, pp.2-10
- 147 ミススペルデスクリプターの自動修正 (D)
小松原康敏
第14回情報科学技術研究集会発表論文集, 1978年2月, pp.193-201
- 148 文献検索における検索式の自動修正 (D)
Carlo Vernimb (著) * ; 佐々木芳雄 (訳)
ドクメンテーション研究, Vol.28, No.5, 1978年5月, pp.175-187
- 149 INIS Atomindex 磁気テープを用いた最新情報定期検索サービスに対する利用者の評価 (D)
清水昭郎; 小松原康敏
日本原子力学会誌, Vol.20, No.7, 1978年7月, pp.497-504
- 150 「シソーラス」研究会, 1 (D)
海老沼幸夫; 長谷川正好*; 広木守雄*; 斎藤和男*; 稲葉安養子*
情報管理, Vol.21, No.5, 1978年8月, pp.323-336
- 151 「シソーラス」研究会, 2 (D)
海老沼幸夫; 長谷川正好*; 広木守雄*; 斎藤和男*; 稲葉安養子*
情報管理, Vol.21, No.6, 1978年9月, pp.413-427
- 152 INIS 入力システムと日本の情報入力における特質と問題点 (D)
成井恵子; 小池邦雄; 井沢三千代; 三浦勇
ドクメンテーション研究, Vol.28, No.10, 1978年10月, pp.439-447
- 153 INIS Atomindex 誌の利用法 (D)
海老沼幸夫
日本原子力学会誌, Vol.20, No.11, 1978年11月, pp.796-803
- 154 会議資料を主対象とする CBR/KWIC 索引の開発；規模専門図書館における実戦向き レファレンス・トゥール (B)
日埜衆司; 楠本みよ子; 志知大策
ドクメンテーション研究, Vol.28, No.11, 1978年11月, pp.516-520
- 155 原研 INIS-SDI システム (D)
小松原康敏; 清水昭郎
情報管理, Vol.21, No.8, 1978年11月, pp.573-585

1979年

- 156 若干の INIS プロファイルにおける検索の効率とミス原因 (D)
海老沼幸夫
情報管理, Vol.21, No.10, 1979年1月, pp.762-770

- 157 INIS Atomindex 誌におけるマニュアル・サーチ 2 種類の比較解析 (D)
海老沼幸夫
ドクメンテーション研究, Vol.29, No.1, 1979 年 1 月, pp.2-11
- 158 フランスの図書館における女性の地位 (A)
Genevieve Boisard (著) * ; 長谷川洋子 (訳)
ドクメンテーション研究, Vol.29, No.4, 1979 年 4 月, pp.139-145
- 159 國際オンライン化をめざす INIS (D)
Ivan S. Zheludev (著) * ; Hans W. Groenewegen(著)* ; 古谷実(訳)
原子力工業, Vol.25, No.4, 1979 年 4 月, pp.22-26,31
- 160 INIS におけるデータラッギングの実施 (D)
横尾宏 ; 高橋智子
ドクメンテーション研究, Vol.29, No.7, 1979 年 7 月, pp.267-274
- 161 情報検索システムとサーチ・テーマとの親和性 (D)
海老沼幸夫
情報管理, Vol.22, No.4, 1979 年 7 月, pp.311-319
- 162 主題索引における主標目と副標目の平均的サーチ効果 (D)
海老沼幸夫
ドクメンテーション研究, Vol.29, No.8, 1979 年 8 月, pp.315-323
- 163 マイクロ・フィッシュへのカッティング・マークの付与 ; 國際原子力情報システムにおける対応と解決 (D)
小池邦雄 ; 羽原正 ; 成井恵子
月刊マイクロ写真, Vol.18, No.9, 1979 年 9 月, pp.28-31
- 164 索引語への自動的重みづけによる情報検索システムの開発 (D)
小松原康敏
情報管理, Vol.22, No.9, 1979 年 12 月, pp.700-709

1980 年

- 165 一次と二次の調和あるドッキングシステム ; 日本原子力研究所の場合 (B)
清水昭郎 ; 平松伸章
ドクメンテーション研究, Vol.30, No.1, 1980 年 1 月, pp.33-39
- 166 10 周年を迎えた INIS (D)
津田信義
原子力工業, Vol.27, No.2, 1980 年 2 月, pp.68-73
- 167 INIS への入力処理時間の分析 (D)
成井恵子 ; 小池邦雄 ; 井沢三千代 ; 楠本みよ子
第 16 回情報科学技術研究会発表論文集, 1980 年 3 月, pp.31-40
- 168 書誌的情報交換用レコードフォーマット (外形式) 基準案 (A)
丸山昭二郎* ; 久保田実* ; 小松原康敏 ; 坂本徹朗* ; 内藤衛亮* ; 南波道宏*
第 16 回情報科学技術研究会発表論文集, 1980 年 3 月, pp.213-220
- 169 シソーラス型文献検索システムにおける自動的重みづけ法の評価, 1 ; 索引語への重みづけ (D)
海老沼幸夫
ドクメンテーション研究, Vol.30, No.6, 1980 年 6 月, pp.247-253

- 170 シソーラス型文献検索システムにおける自動的重みづけ法の評価，2；索引語への重みづけと両方式の比較 (D)
海老沼幸夫
ドクメンテーション研究, Vol.30, No.7, 1980年7月, pp.293-300
- 171 会議資料目録法の問題点について (A)
志知大策
ドクメンテーション研究, Vol.30, No.11, 1980年11月, pp.525-536
- 1981年
- 172 日本の逐次刊行物掲載論文における英語表記 (A)
成井恵子；井沢三千代；橋本みよ子；神白唯詩
第17回情報科学技術研究集会発表論文集, 1981年3月, pp.41-49
- 173 銀塩型とジアゾ型のマイクロフィッシュ混排の影響 (B)
羽原正；小池邦雄；古谷実；松田公徳；神白唯詩；山本恵美子；佐藤憲次
第17回情報科学技術研究集会発表論文集, 1981年3月, pp.95-103
- 174 海外誌への原子力論文投稿に関するアンケート調査 (A)
土生健；平松伸章；海老沼幸夫
第17回情報科学技術研究集会発表論文集, 1981年3月, pp.29-39
- 175 計量書誌学；ビブリオメトリックス (A)
仲本秀四郎
ドクメンテーション研究, Vol.31, No.4, 1981年4月, pp.161-168
- 176 INIS オンライン検索の試用におけるディスクリプタとフリータームの検索効果テスト (D)
海老沼幸夫；高橋智子
情報管理, Vol.24, No.2, 1981年5月, pp.139-149
- 177 The First Decade of INIS in Japan (D)
技術情報部
JAERI-M 9537, 1981年6月, 57p.
- 178 原研におけるINISオンライン検索の試み (D)
佐々木芳雄；中村康弘*
情報管理, Vol.24, No.4, 1981年7月, pp.383-393
- 179 國際原子力情報システム(INIS)におけるマイクロフィッシュの作成と配布 (D)
神白唯詩；羽原正
月刊マイクロ写真, Vol.20, No.9, 1981年8月, pp.25-33
- 180 ブール型文献検索システム向きの確率論的重みづけモデルの選択 (D)
海老沼幸夫
情報管理, Vol.24, No.6, 1981年9月, pp.587-595
- 181 日本の情報の位置づけ (A)
仲本秀四郎
"日本の原子力情報；その量的把握と特徴, JAERI-M 9860", 1981年10月, pp.3-8
- 182 日本で発表された文献情報 (A)
成井恵子；羽原正
"日本の原子力情報；その量的把握と特徴, JAERI-M 9860", 1981年10月, pp.9-20

- 183 海外で発表された文献情報 (A)
奥村喜美枝；山本恵美子；土生健
"日本の原子力情報；その量的把握と特徴, JAERI-M 9860", 1981年10月, pp.21-33
- 184 口頭発表情報 (A)
羽原正；成井恵子
"日本の原子力情報；その量的把握と特徴, JAERI-M 9860", 1981年10月, pp.35-50
- 185 学協会における著作権管理 (A)
清水昭郎
日本原子力学会誌, Vol.23, No.11, 1981年11月, pp.815-819

1982年

- 186 Consideration for diffusion of keyword assignment in free terms to articles in scientific journals (D)
海老沼幸夫
Intern Info Commun Educ, Vol.1, No.1, 1982年, pp.59-66
- 187 国際協力による情報処理の経験：INIS計画15周年を迎えて (D)
海老沼幸夫
科学技術文献サービス, Vol.59, 1982年, pp.22-29
- 188 原研図書課における業務マニュアル作成の経験 (B)
羽原正；小池邦雄；松田公徳
専門図書館, No.90, 1982年, pp.74-76
- 189 Evaluation of the JAERI-INIS in house online service by users (D)
小松原康敏
Terminal, Vol.2, No.3-4, 1982年, pp.23-28
- 190 書誌的情報交換用レコードフォーマット基準について (A)
仲本秀四郎
KURRI-TR-229, 1982年, pp.3-7
- 191 日本原子力研究所における引用調査 (C)
仲本秀四郎；清水健宏
第18回情報科学技術研究集会発表論文集, 1982年3月, pp.167-174
- 192 書誌的情報交換用レコードフォーマット(内形式)基準案 (A)
丸山昭二郎*；石塚英弘*；上田修一*；坂本徹朗*；日埜衆司；南波道宏*；服部俊穀*
第18回情報科学技術研究集会発表論文集, 1982年3月, pp.245-250
- 193 学術誌へのキーワード付与制の要請 (D)
高橋智子；海老沼幸夫；横尾宏
第18回情報科学技術研究集会発表論文集, 1982年3月, pp.251-257
- 194 An analysis of citation analysis (A)
仲本秀四郎
INFORMANT, Vol.1, No.1, 1982年3月, pp.15-24
- 195 原研INIS文献検索システムにおける自動ランキング法の有用性 (D)
海老沼幸夫
情報管理, Vol.25, No.1, 1982年4月, pp.45-56

- 196 自動ランキング法の信頼性の基礎 (D)
海老沼幸夫
ドクメンテーション研究, Vol.32, No.4, 1982年4月, pp.173-181
- 197 INIS インデクシング一致性テストの再評価 (D)
海老沼幸夫
ドクメンテーション研究, Vol.32, No.6, 1982年6月, pp.271-280
- 198 日本原子力研究所技術情報部における機械化の現状 (B)
成井恵子
図書館科学会会報, No.7, 1982年7月, pp.4-5, 10
- 199 INIS RS サービスにおけるプロファイルの特性 (D)
小松原康敏
ドクメンテーション研究, Vol.32, No.8, 1982年8月, pp.375-382
- 200 サンプル数の少ないプラットフォード曲線の信頼性 (A)
清水健宏
ドクメンテーション研究, Vol.32, No.9, 1982年9月, pp.427-431
- 201 著者名によるデータベースの収録性調査法 (D)
高橋智子; 羽原正; 横尾宏
ドクメンテーション研究, Vol.32, No.12, 1982年12月, pp.617-620
- 202 Evaluation of automatic ranking scheme in the INIS reference retrieval system (D)
海老沼幸夫
INFORMANT, Vol.1, No.2, 1982年12月, pp.201-216

1983年

- 203 Standardization for documentation and library works ; Review (A)
内藤衛亮*; 上田修一*; 仲本秀四郎
The Challenge of Information Technology, (Proceedings of 41st FID Congress),
1983年, pp.63-73
- 204 Japanese (Sino-Japanese) characters for bibliographic Machine Handling ;
Status report (A)
仲本秀四郎; 内藤衛亮*; 上田修一*; 田村貴代子*; 南波道宏*; 神尾達夫*
The Challenge of Information Technology, (Proceedings of 41st FID Congress),
1983年, pp.99-123
- 205 プラットフォード法則の実証的研究 (A)
仲本秀四郎; 清水健宏
第13回ドクメンテーション・シンポジウム予稿集, 1983年, pp.1-5
- 206 Promotion of keyword assignment to scientific literature by contributors (D)
海老沼幸夫; 高橋智子; 羽原正; 横尾宏
Int.Forum Infor.Doc., Vol.8, No.3, 1983年, pp.16-20
- 207 文献データベース間の収録性の比較調査; INIS 核融合文献の INSPEC との重複 (D)
成井恵子; 羽原正; 井沢三千代; 楠本みよ子; 神白唯詩
第19回情報科学技術研究集会発表論文集, 1983年3月, pp.72-80

- 208 FAIRS による文献検索の自動化 (D)
佐々木芳雄
第 19 回情報科学技術研究集会発表論文集, 1983 年 3 月, pp.121-131
- 209 科学技術情報の評価 ; 一つのアプローチ (A)
仲本秀四郎
情報管理, Vol.26, No.1, 1983 年 4 月, pp.15-21
- 210 利用データにもとづく廃棄雑誌の選択方法 (B)
清水健宏
情報管理, Vol.26, No.2, 1983 年 5 月, pp.95-100
- 211 國際機関における情報活動, 3 ; IAEA (国際原子力機関) (D)
海老沼幸夫
情報管理, Vol.26, No.3, 1983 年 6 月, pp.199-211
- 212 國際原子力情報システム (INIS) にみるプラズマ・核融合論文の統計 (D)
楳本みよ子 ; 羽原正
日本原子力学会誌, Vol.25, No.8, 1983 年 8 月, pp.622-625
- 213 Empirical Study of Bradford's Law (A)
清水健宏
INFORMANT, Vol.2, No.1, 1983 年 8 月, pp.14-28
- 214 研究機関における研究成果の著作権管理に関する実態調査の概要 (A)
青木勝男 ; 清水昭郎
ドクメンテーション研究, Vol.33, No.8, 1983 年 8 月, pp.361-367
- 215 INIS 原子力情報の検索サービス ; オンライン化に向けて (D)
海老沼幸夫 ; 小松原康敏
日本原子力学会誌, Vol.25, No.9, 1983 年 9 月, pp.691-695
- 216 オンライン簡易自動文献探索法 (D)
海老沼幸夫
情報管理, Vol.26, No.9, 1983 年 12 月, pp.726-735

1984 年

- 217 INIS データベースの特徴 (D)
海老沼幸夫
KURRI-TR-248, 1984 年, pp.9-21
- 218 小規模図書室におけるオフコンを利用した図書資料管理 (B)
板橋慶造 ; 石川正
ドクメンテーション研究, Vol.34, No.1, 1984 年 1 月, pp.33-39
- 219 文献データベース間の収録性比較調査, II; INSPEC 核融合文献の INIS との照合 (D)
成井恵子 ; 羽原正 ; 井沢三千代 ; 楠本みよ子 ; 神白唯詩
第 20 回情報科学技術研究集会発表論文集, 1984 年 3 月, pp.117-125
- 220 文献の老化モデルの検証 (A)
仲本秀四郎
第 20 回情報科学技術研究集会発表論文集, 1984 年 3 月, pp.229-234

- 221 原子力レポート目録作成システム； RANSER (B)
板橋慶造
情報管理, Vol.26, No.12, 1984年3月, pp.1019-1028
- 222 適合情報利用によるオンライン高性能自動文献探索法 (D)
海老沼幸夫
情報管理, Vol.27, No.8, 1984年11月, pp.692-703
- 223 英語データベースにおける日本人著者名のローマ字表記の現状調査 (A)
井沢三千代; 神白唯詩; 成井恵子
ドクメンテーション研究, Vol.34, No.12, 1984年12月, pp.541-546

1985年

- 224 電子出版 (A)
日塙衆司
ドクメンテーション研究, Vol.35, No.1, 1985年1月, pp.17-22
- 225 Different effect of subject key schemes on retrieval efficiency in the INIS on-line search (D)
海老沼幸夫; 高橋智子
Intern Info Commun Educ, Vol.4, No.1, 1985年3月, pp.14-25
- 226 INISにおける入力と利用の要員訓練 (D)
下川純一; 海老沼幸夫
情報管理, Vol.27, No.12, 1985年3月, pp.1069-1075
- 227 科学技術情報流通技術基準； 学術論文の構成とその要素（案）(A)
佐々木敏雄*; 石井透*; 川島勝*; 清水昭郎; 鈴木博道*; 武藤茂春*
第21回情報科学技術研究集会発表論文集, 1985年3月, pp.151-153
- 228 科学技術情報流通基準； 参照文献の書き方 (A)
仲本秀四郎; 田村俊作*; 寺井由比子*; 中川昭太郎*; 西垣幸雄*; 玉井鉄夫*
第21回情報科学技術研究集会発表論文集, 1985年3月, pp.155-161
- 229 図書館業務パッケージの利用； その特徴と使い方 (B)
板橋慶造
ドクメンテーション研究, Vol.35, No.8, 1985年8月, pp.425-430
- 230 日本原子力研究所のオンライン雑誌管理システム； PARIS (B)
板橋慶造; 峯尾幸信
情報管理, Vol.28, No.6, 1985年9月, pp.494-507
- 231 ハイテク時代の情報技術, 7; 自動翻訳, その1, 翻訳の現状 (A)
板橋慶造
ドクメンテーション研究, Vol.35, No.11, 1985年11月, pp.595-601
- 232 国内原子力レポートの構成要素と記載事項 (A)
榎本みよ子; 成井恵子
ドクメンテーション研究, Vol.35, No.11, 1985年11月, pp.571-582

1986年

- 233 INIS の現況と課題 (D)
横尾宏
KURRI-TR-274, 1986年2月, pp.23-32
- 234 INIS の現状と展望 (D)
小幡行雄
日本原子力学会誌, Vol.28, No.6, 1986年6月, pp.508-513

1987年

- 235 第10回国際オンライン情報会議に参加して (A)
板橋慶造
専門図書館, No.111, 1987年, pp.39-43
- 236 Development and experience of mini-computer system for library materials (B)
峯尾幸信; 小松原康敏; 板橋慶造; 米澤稔
Proc. 1st Pacific Conf. on New Information Technology, 1987年, pp.195-203
- 237 日本原子力研究所におけるオフィス・コンピュータによる雑誌管理オンラインシステム
(PARIS) の使用経験 (B)
峯尾幸信; 米澤稔; 板橋慶造
情報の科学と技術, Vol.37, No.1, 1987年1月, pp.21-28
- 238 原子力分野における会議文献情報の特徴 (A)
榎本みよ子; 羽原正
第23回情報科学技術研究集会発表論文集, 1987年3月, pp.111-117
- 239 KWIC式INIS分野別シソーラスの自動作成 (D)
角川正義
第23回情報科学技術研究集会発表論文集, 1987年3月, pp.55-61
- 240 A New measure of output ranking performance in automatic document retrieval systems (D)
海老沼幸夫
INFORMANT, Vol.4, No.2, 1987年3月, pp.79-85
- 241 Improvement of Rocchio's measures for output; Ranking performance in reference retrieval (D)
海老沼幸夫
Int. Inf. Commun. Educ., Vol.6, No.1, 1987年3月, pp.45-54
- 242 日本原子力研究所における所内研究成果データベース (JAST) の実際 (C)
清水昭郎
情報の科学と技術, Vol.37, No.5, 1987年5月, pp.191-197
- 243 Nuclear Science Information of Japan-Oral Presentation (NSIJ-OP) の発刊 (D)
板橋慶造
日本原子力学会誌, Vol.29, No.6, 1987年6月, pp.523-524
- 244 外国の情報センター・図書館を訪ねて; タイ国立図書館 (A)
峯尾幸信
情報の科学と技術, Vol.37, No.10, 1987年10月, pp.479-482

- 245 外国情報センター・図書館を訪ねて； オークリッジ国立研究所図書館 (A)
石川正
情報の科学と技術, Vol.37, No.11, 1987年11月, pp.529-530
- 246 外国情報センター・図書館を訪ねて； マサチューセッツ工科大学図書館 (A)
石川正
情報の科学と技術, Vol.37, No.12, 1987年12月, pp.585-586
- 247 日本原子力研究所図書館における図書管理・閲覧貸出システム (B)
米澤稔; 峯尾幸信; 板橋慶造
情報の科学と技術, Vol.37, No.12, 1987年12月, pp.555-562

1988年

- 248 原子力分野における口頭発表（昭和59年会）の追跡調査 (A)
板橋慶造; 中嶋英充
日本原子力学会誌, Vol.30, No.2, 1988年2月, pp.140-143
- 249 レファレンス・オムニバス, 1; だれにでもできて100%当てられるレファレンス (B)
志知大策
情報の科学と技術, Vol.38, No.2, 1988年2月, pp.103-104
- 250 IEAエネルギー技術データ交換計画の概要 (D)
海老沼幸夫
日本原子力学会誌, Vol.30, No.3, 1988年3月, pp.207-211
- 251 日本における Research in progress 情報「Nuclear Science Information of Japan-Oral Presentation」(NSIJ-OP) の発刊 (D)
板橋慶造; 中嶋英充; 横尾宏
第24回情報科学技術研究集会発表論文集, 1988年3月, pp.169-178
- 252 化学文献の翻訳における専門知識の影響 (A)
山本昭
Library and Information Science, No.25, 1988年3月, pp.157-167
- 253 レファレンス・オムニバス, 2; なりふりかまわず100%当てられるレファレンス (B)
志知大策
情報の科学と技術, Vol.38, No.3, 1988年3月, pp.144-145
- 254 レファレンス・オムニバス, 3; レファレンスは新着資料のなかに多数あり (B)
志知大策
情報の科学と技術, Vol.38, No.4, 1988年4月, pp.204-205
- 255 レファレンス・オムニバス, 4; 100%当てた文献だから大切に整理できる (B)
志知大策
情報の科学と技術, Vol.38, No.5, 1988年5月, pp.276-277
- 256 C-14による年代測定法の創始者リビー博士の業績 (A)
海老沼幸夫
Isotope News, No.407, 1988年5月, pp.10-13
- 257 レファレンス・オムニバス, 5; レファレンスとはトリチウムのことなり, 1 (B)
志知大策
情報の科学と技術, Vol.38, No.6, 1988年6月, pp.337-339

- 258 日本原子力研究所における研究成果の発表状況； 口頭および論文発表 (C)
 中嶋英充；羽原正
 第18回ドクメンテーション・シンポジウム予稿集, 1988年6月, pp.30-34
- 259 外国人による図書館利用の実態と問題点 (B)
 奥村喜美枝；小松原康敏；羽原多賀子；神白唯詩
 第18回ドクメンテーション・シンポジウム予稿集, 1988年6月, pp.45-50
- 260 レファレンス・オムニバス, 6; レファレンスとはトリチウムのことなり, 2 (B)
 志知大策
 情報の科学と技術, Vol.38, No.7, 1988年7月, pp.387-388
- 261 Dissemination of Japanese information on research in progress on nuclear science and technology (D)
 板橋慶造；中嶋英充
 44th FID Conference and Congress Finland, Pt. 3, 1988年8月, pp.128-137
- 262 レファレンス・オムニバス, 7; レファレンスとはまた会議資料のことなり (B)
 志知大策
 情報の科学と技術, Vol.38, No.8, 1988年8月, pp.458-459
- 263 レファレンス・オムニバス, 8; レファレンスにおける C.B.R.とは (B)
 志知大策
 情報の科学と技術, Vol.38, No.9, 1988年9月, pp.550-551
- 264 INIS の近況と中南米における地域原子力情報ネットワークの開発 (D)
 海老沼幸夫
 情報管理, Vol.31, No.7, 1988年10月, pp.619-626
- 265 外国の情報センター・図書館を訪ねて； パイクスピーカー図書館区 (A)
 海老沼幸夫
 情報の科学と技術, Vol.38, No.8, 1988年10月, pp.450-457
- 266 レファレンス・オムニバス, 9; すべてのレファレンスは会議資料で (B)
 志知大策
 情報の科学と技術, Vol.38, No.10, 1988年10月, pp.606-607
- 267 レファレンス・オムニバス, 10; 文献のお知らせはコラージュ(切貼り)で (B)
 志知大策
 情報の科学と技術, Vol.38, No.11, 1988年11月, pp.644-645
- 268 レファレンス・オムニバス, 11; 絵(図・表)のない情報は情報ではない (B)
 志知大策
 情報の科学と技術, Vol.38, No.12, 1988年12月, pp.670-671

1989年

- 269 4.2.レファレンス・サービス (B)
 板橋慶造
 白書専門図書館, 1989, 1989年, pp.172-190
- 270 研究者が行うオンライン検索のために； 日本原子力研究所における利用者開拓 (D)
 板橋慶造
 専門図書館, No.125, 1989年, pp.91-96

- 271 レファレンス・オムニバス, 12; 今日の情報にはコレージュが最適 (B)
志知大策
情報の科学と技術, Vol.39, No.1, 1989年1月, pp.34-35
- 272 International activities in nuclear documentation (A)
海老沼幸夫
Journal of Nuclear Science and Technology, Vol.26, No.1, 1989年1月, pp.215-218
- 273 原子力情報 (A)
古谷実; 仲本秀四郎*; 海老沼幸夫
日本原子力学会誌, Vol.31, No.1, 1989年1月, pp.137-141
- 274 外国情報センター・図書館を訪ねて; プロシア文化財団図書館 (A)
板橋慶造
情報の科学と技術, Vol.39, No.2, 1989年2月, pp.69-72
- 275 検索式の自動作成の実験 (D)
佐々木芳雄
第25回情報科学技術研究集会発表論文集, 1989年2月, pp.43-48
- 276 SIST 11・1987 数値型情報交換用レコード構成(案) (A)
仲本秀四郎*; 小野寺夏生*; 喜多村政美*; 小松原康敏; 大保信夫*; 門條司*; 矢嶋祐次*
第25回情報科学技術研究集会発表論文集, 1989年2月, pp.189-193
- 277 利用者からみた J-BISC の特徴と問題点 (B)
小松原康敏
情報の科学と技術, Vol.39, No.5, 1989年5月, pp.153-159

1990年

- 278 INIS20年の歩みと現況 (D)
古谷実
あいみつく, Vol.11, No.1, 1990年, pp.5-11
- 279 パーソナルコンピュータを使ったINIS書誌データ作成システム (D)
石川正
情報の科学と技術, Vol.40, No.1, 1990年1月, pp.27-34
- 280 米国原子力規制資料の現況と問題点 (B)
古谷実; 三浦勇
第26回情報科学技術研究集会発表論文集, 1990年2月, pp.185-193
- 281 外国情報センター・図書館を訪ねて; 国立医学図書館(NLM)ほか (A)
米澤稔
情報の科学と技術, Vol.40, No.3, 1990年3月, pp.229-234
- 282 本会「欧文誌」の被引用状況 (A)
仲本秀四郎*; 高橋智子
日本原子力学会誌, Vol.32, No.9, 1990年9月, pp.895-897
- 283 國際協力による原子力文献情報の提供; 國際原子力情報システム(INIS) (D)
板橋慶造; 石川正
情報の科学と技術, Vol.40, No.12, 1990年12月, pp.840-847

1991 年

- 284 國際原子力情報システム (INIS) における典拠コントロール (D)
石川正
情報の科学と技術, Vol.41, No.2, 1991 年 2 月, pp.147-152

1992 年

- 285 日本原子力研究所におけるレポートのマイクロフィッシュ作成・配布の経験 (C)
松田公徳
第 28 回情報科学技術研究集会発表論文集, 1992 年 2 月, pp.125-130
- 286 STN と DIALOG による ENERGY ファイルの利用に関するアンケート結果 (D)
板橋慶造(訳)
情報の科学と技術, Vol.42, No.2, 1992 年 2 月, pp.150-157
- 287 Materials data through a bibliographic database INIS (D)
山本昭 ; 板橋慶造 ; 中嶋英充
Proc. of the 4th Int. Symp. on Advanced Nuclear Energy Research
(JAERI-CONF 1/JAERI-M 92-207), 1992 年 12 月, pp.442-446

1993 年

- 288 パソコンと大型計算機を使った英文データベース入力システム (D)
板橋慶造 ; 石川正
第 29 回情報科学技術研究集会発表論文集, 1993 年 2 月, pp.263-272
- 289 索引作業支援ツールの開発; INIS ディスクリプタと自然語の対応辞書 (D)
山本昭 ; 中嶋英充 ; 板橋慶造
第 29 回情報科学技術研究集会発表論文集, 1993 年 2 月, pp.341-351
- 290 原研研究成果情報システム (JOLIS) の開発; その入力処理と活用 (C)
羽原正 ; 楠木みよ子 ; 横尾宏 ; 富山峯秀* ; 鈴木晃一*
第 29 回情報科学技術研究集会発表論文集, 1993 年 2 月, pp.209-219
- 291 歐州共同体 (EC) における機械翻訳システム; SYSTRAN から EUROTRA へ (A)
板橋慶造 (訳) ; 米澤稔 (訳)
情報の科学と技術, Vol.43, No.5, 1993 年 5 月, pp.446-456
- 292 現場におけるインデクシングの諸問題 ; 討議記録からの問題抽出の試み (A)
井上孝* ; 戸塚隆哉* ; 春山暁美* ; 村田祐子* ; 山本昭
情報の科学と技術, Vol.43, No.9, 1993 年 9 月, pp.810-815
- 293 INIS データベースの特徴とその利用 (D)
高橋智子 ; 横尾宏
原子力工業, Vol.39, No.10, 1993 年 10 月, pp.31-35
- 294 國際会議会議録の特徴 ; 国内開催の科学技術関係会議を対象として (A)
深澤剛靖 ; 山本昭 ; 板橋慶造
情報の科学と技術, Vol.43, No.10, 1993 年 10 月, pp.913-915
- 295 外国雑誌購入業務におけるオフィスコンピュータの利用 ; 「雑誌管理システム」の機能
拡張 (B)
米澤稔 ; 清水時代
情報の科学と技術, Vol.43, No.10, 1993 年 10 月, pp.905-907

1994 年

- 296 日本原子力研究所図書館における利用調査；効果的な専門図書館運営を目指して (B)
野澤隆；板橋慶造；松田公徳；中嶋英充
第 30 回情報科学技術研究集会発表論文集, 1994 年 2 月, pp.193-200
- 297 研究課題情報のデータベース (A)
田中功*；板橋慶造
情報管理, Vol.36, No.12, 1994 年 3 月, pp.1099-1108
- 298 原子力分野における雑誌論文投稿とタイムラグ (A)
石川正
情報の科学と技術, Vol.44, No.5, 1994 年 5 月, pp.266-269
- 299 遠隔利用者にとっての情報格差；研究所図書館と研究者 (B)
板橋慶造
情報の科学と技術, Vol.44, No.11, 1994 年 11 月, pp.619-623

1995 年

- 300 日本原子力研究所図書館における利用調査 (B)
野澤隆
専門図書館, No.155, 1995 年, pp.31-35
- 301 最近の科学技術データベースの利用動向； INIS 利用者ニーズ調査から (D)
深澤剛靖；高橋智子；米澤稔；神白唯詩；峯尾幸信；羽原多賀子；小松原康敏；
平松伸章；羽原正
第 31 回情報科学技術研究集会発表論文集, 1995 年 2 月, pp.123-129

1996 年

- 302 インターネット活用術, 第 4 回；エネルギー技術データ交換計画 (Energy Technology Data Exchange) におけるインターネットの活用 (D)
米澤稔
情報の科学と技術, Vol.46, No.4, 1996 年 4 月, pp.242-245

1998 年

- 303 第 4 章：科学技術資料の特性とアクセス, 第 2 節；科学技術資料の書誌・参考図書 (A)
板橋慶造
新 現代図書館学講座, 9 専門資料論, 1998 年 1 月, pp.168-195

2001 年

- 304 ポータルサイトを作る；INIS Web サービスと Energy Information Sources (D)
米澤稔
情報の科学と技術, Vol.51, No.9, 2001 年 9 月, pp.455-460

2002 年

- 305 ござんじですか？図書館情報大学 (A)
野澤隆
専門図書館, No.197, 2002 年, pp.32-36

2003 年

- 306 The Effectiveness of providing electronic journals in JAERI (B)
野澤隆；羽原正；板橋慶造；石川正；米澤稔
Statistics in Practice · Measuring & Managing;(Proc. of IFLA Satellite Conf.,
2003 年 5 月, pp.173-178

2004 年

- 307 ござんじですか？ビジネス著作権検定 (A)
野澤隆
専門図書館, No.205, 2004 年, pp.27-31
- 308 専門図書館を見る；(財)味の素食の文化センター食の文化ライブラリー (A)
野澤隆
専門図書館, No.210, 2004 月 1 月, pp.50-54
- 309 電子ジャーナル導入による外国雑誌の利用動向の変化；日本原子力研究所の場合 (B)
石川正；羽原正；大島健志
情報の科学と技術, Vol.54, No.3, 2004 年 3 月, pp.126-132
- 310 原研研究成果総合利用管理システム (JOLIS) による研究成果のとりまとめと普及；
電子申請から全文発信まで (C)
中嶋英充；海老澤直美*；羽原正
第 1 回情報プロフェッショナルシンポジウム (INFOPRO 2004) 予稿集, 2004 年 10 月,
pp.103-106

2005 年

- 311 原研における図書館機能の外国人研修生に対する実習経験 (B)
深澤剛靖
平成 16 年度 第 90 回香川大会 全国図書館大会記録, 2005 年 3 月, pp.257-264
- 312 科学技術分野における会議録の収集と提供；日本原子力研究所図書館の場合 (B)
池田貴儀
情報の科学と技術, Vol.55, No.5, 2005 年 5 月, pp.219-223

付録2 主題索引

凡例

アルファベット順及び五十音順に配列した。

アルファベット

FID(Federation Internationale d' Information et de Documentation) 13
 14, 17, 34, 43
 IAEA(International Atomic Energy Agency) 35, 211
 KWIC(Keyword in Context Index) 87
 88, 89, 154, 239
 NSA(Nuclear Science Abstracts) 84
 120, 124, 128
 NSAJ(Nuclear Science Abstracts of Japan) 38, 73
 NSIJ·OP(Nuclear Science Information of Japan·Oral Presentation) 243, 251
 Research in Progress 251, 261
 Retrieval System 202, 240, 241
 RS(Retrieval Search) 199
 SDI(Selective Dissemination Information) 155

あ行

インデクシング 106, 135, 197, 289, 292
 引用 48, 191, 194, 220, 282
 英文データベース 288
 エネルギー技術データ交換計画(ETDE)
 250, 286, 302
 オンライン検索 176, 178, 215, 216, 222
 270
 オンラインシステム 159, 230, 235, 237

か行

会議録 36, 112, 154, 171, 238
 262, 266, 294, 312
 科学技術情報 33, 61, 78, 104, 137
 209, 227, 228, 273
 科学技術資料 1, 109, 303
 科学技術情報流通システム (NIST) 75,
 79
 科学技術データベース 301
 科学者 32, 61, 90
 化学文献 47, 252
 学術誌 27, 144, 193
 貸出 23, 49, 64, 247
 キーワード方式 26, 40, 55, 88
 キーワード付与 144, 146, 186, 193, 206
 機械化 15, 28, 29, 49, 59
 64, 72, 104, 198, 204
 機械翻訳 291
 規制資料 (DOCKET) 280
 業績 256
 計量書誌学 175
 研究課題 297
 研究者 66, 270, 299
 研究成果 10, 16, 214, 242
 258, 290, 310
 原子力分野 126, 145, 238, 248, 298
 原子力レポート 39, 98, 131, 221, 232
 口頭発表 80, 184, 248, 258
 国際協力 31, 187, 283

国際原子力情報システム(INIS)	35, 44 50, 62, 84, 85, 92 93, 94, 99, 100, 101 102, 105, 106, 111, 112 117, 118, 121, 124, 128 129, 135, 140, 141, 149 152, 153, 155, 156, 157 159, 160, 163, 166, 167 176, 177, 178, 179, 187 189, 195, 197, 199, 202 207, 212, 215, 217, 219 225, 226, 233, 234, 239 264, 278, 279, 283, 284 287, 289, 293, 301, 304 国際流通	抄 錄	12, 40, 59, 114, 120 124, 126
		書誌記述(書誌データ)	95, 125, 134, 204 279
		資 料	15, 21, 22, 30, 74 107, 108, 123, 254
		専門図書館	4, 9, 46, 107, 108 154, 296, 308, 311
た行			
		大学図書館	305
		著作権	185, 214, 307
		著者	76, 81, 135, 136, 201 223
		ディスクリプター	92, 113, 115, 127 147, 176, 289
		データラッギング	160
		典拠コントロール	284
		電子計算機	51, 56, 63, 70, 116 236
		電子ジャーナル	306, 309
		電子出版	224
		ドクメンテーション	3, 16, 18, 57, 203 272
		図書館業務	72, 188, 203, 229
		図書館職員(要員訓練を含む)	158, 226 311
		図書資料	103, 218, 236
		図書館利用	259
な行			
		日本原子力研究所図書館	5, 6, 20, 23 25, 37, 45, 64, 68 70, 96, 97, 98, 103
			122, 131, 138, 139, 165
			188, 191, 198, 230, 237
			242, 247, 270, 285, 296
			299, 300, 309, 312
		入力処理	96, 133, 152, 167, 226 288, 290

は行

- 廃棄雑誌 210
 表記 54, 91, 172, 223
 複写 11, 122
 ブラッドフォード曲線(法則) 120, 200
 205, 213, 220
 プログレス・リポート 94, 105, 117, 141
 プロファイル 156, 199
 文献検索 116, 132, 148, 169, 170
 180, 195, 208, 275
 文献情報 128, 130, 181, 182, 183
 238, 283
 翻訳 8

論文投稿

174, 258, 298

わ行

- ワインバーグ報告 24, 32, 79

ま行

- マイクロ資料 139
 マイクロフィッシュ 96, 97, 98, 145
 163, 173, 179, 285
 マイクロフィルム 69
 目録 7, 25, 42, 43, 57, 71
 83, 87, 98, 221

や行

- ユーラトム(EURATOM) 26, 31, 40, 55
 77

ら行

- 利 用 11, 68, 70, 107, 108
 123, 129, 137, 139, 145
 153, 218, 226, 229, 293
 295, 309
 利 用 者 65, 149, 270, 277, 299
 301
 利用調査 66, 286, 296, 300, 301
 レコードフォーマット 168, 190, 192
 レファレンス(文献調査を含む) 119, 122
 123, 143, 154, 249, 253
 254, 255, 257, 260, 262
 263, 266, 267, 268, 269
 271

付録3 著者索引

凡例

- 1 団体著者、個人著者の順とした。個人著者は日本人著者、外国人著者の順とした。
- 2 日本人著者は五十音順に、外国人著者はアルファベット順に配列した。
- 3 著者の所属が図書館以外の場合、著者名の末尾に*を付した。
- 4 著者名の後の括弧内氏名は新姓である。

団体著者

日本原子力研究所技術情報部 32, 94, 105, 141, 177

日本原子力研究所技術情報部情報資料課 71

日本原子力研究所技術情報部図書課 103

アメリカ大統領科学諮問委員会 (President's Science Advisory Committee)* 32

個人著者（日本人著者）

あ行		海老澤直美*	310
青木 勝男	214	海老沼幸夫	19, 27, 77, 116, 117, 118
池田 貴儀	312		124, 129, 130, 136, 142, 144
井沢三千代	133, 152, 167, 172, 207, 219		146, 150, 151, 153, 156, 157
	223		161, 162, 169, 170, 174, 176
石井 透*	227		180, 186, 187, 193, 195, 196
石川 正	127, 218, 245, 246, 279, 283		197, 202, 206, 211, 215, 216
	284, 288, 298, 306, 309		217, 222, 225, 226, 240, 241
石塚 英弘*	192		250, 256, 264, 265, 272, 273
板橋 慶造	218, 221, 229, 230, 231, 235	大井 正一*	114, 125, 130, 134, 137
	236, 237, 243, 247, 248, 251	大川 隆	96
	261, 269, 270, 274, 283, 286	大島 健志	309
	287, 288, 289, 291, 294, 296	太田 泰弘*	114
	297, 299, 303, 306	大森 栄一	121, 128
稻川 恵子（成井恵子）	7	大保 信夫*	276
稻野辺敬義	34	尾川多恵子*	125, 134
稻葉安養子*	150, 151	奥村喜美枝	183, 259
稻見 泰生*	89, 100	小沼 吉男*	89
井上 孝*	292	小野村 仁*	58, 60
植木 英吉*	137	小野寺夏生*	276
上田 修一*	125, 134, 192, 203, 204	小幡 行雄	234

か行

神白 唯詩 172, 173, 179, 207, 219, 223
259, 301

角川 正義 239

神尾 達夫* 204

川崎八重子 27

川島 勝* 227

河野 稔 11

岸並 昭 2, 4, 37, 45

喜多村政美* 276

草間 基* 125, 134

久保田 実* 168

栗山 実 26, 33, 34, 40, 52, 54, 55
69, 79, 87, 88, 91

小池 邦雄 152, 163, 167, 173, 188

小林 一作* 58, 60

小松原康敏 66, 76, 82, 86, 93, 95, 106
115, 125, 132, 134, 147, 149
155, 164, 168, 189, 199, 215
236, 259, 276, 277, 301

下川 純一 226

鈴木 晃一* 290

鈴木 博道* 227

た行

田頭 満雄 11

高橋喜美枝（奥村喜美枝） 66

高橋 智子 126, 132, 135, 160, 176, 193
201, 206, 225, 282, 293, 301

高丸多賀子（羽原多賀子） 38

竹内 寿* 114

田中 功* 297

田辺 俊勝 26, 38, 73

玉井 鉄夫* 228

田村貴代子* 204

田村 俊作* 228

塚田 孜* 137

津田 信義 13, 39, 49, 65, 139, 166

寺村由比子* 134, 228

戸塚 隆哉* 292

富山 峰秀 290

さ行

斎藤 和男* 150, 151

坂本 徹朗* 168, 192

桜井 宣隆* 137

佐々木敏雄* 114, 227

佐々木芳雄 148, 178, 208, 275

佐藤 憲次 173

志知 大策 9, 36, 46, 61, 66, 90, 99
104, 107, 108, 110, 119, 122
123, 131, 137, 138, 143, 154
171, 249, 253, 254, 255, 257
260, 262, 263, 266, 267, 268
271,

柴田 長夫 102

清水 昭郎 36, 41, 42, 66, 86, 149
155, 165, 185, 214, 227, 242

清水 健宏 191, 200, 205, 210, 213

清水 時代 295

な行

内藤 衛亮* 168, 203, 204

中川昭太郎* 228

中嶋 英充 248, 251, 258, 261, 287, 289

296, 310

中村 康弘* 178

仲本秀四郎 20, 21, 22, 23, 30, 47, 48
74, 175, 181, 190, 191, 194
203, 204, 205, 209, 220, 228

仲本秀四郎* 273, 276, 282

長山 泰介 1, 3, 5, 8, 10, 11, 12,
13, 14, 16, 17, 18, 19, 24

26, 28, 29, 31, 35, 44, 50
53, 57, 58, 60, 62, 67, 72
75, 78, 83, 90, 99, 111

114

成井 恵子	36, 56, 67, 70, 76, 82, 86 98, 120, 133, 152, 163, 167 172, 182, 184, 198, 207 219, 223, 232	三浦 勇	133, 152, 280
南波 道宏*	168, 192, 204	三島 良績*	130
榎本みよ子	154, 167, 172, 207, 212, 219 232, 238, 290	溝口 歌子*	114
西垣 幸雄*	228	峯尾 幸信	230, 236, 237, 244, 247, 301
野澤 隆	296, 300, 305, 306, 307, 308	武藤 茂春*	227
		村田 祐子*	292
		村尾 成允	6
		門條 司*	276
		森 賢造	29, 33

は行

長谷川正好*	150, 151
長谷川洋子	14, 26, 40, 54, 55, 87, 91 97, 158
服部 俊殻*	192
羽原多賀子	67, 76, 97, 259, 301
羽原 正	65, 84, 90, 96, 98, 131 135, 139, 145, 163, 173, 179 182, 184, 188, 201, 206, 207 212, 219, 238, 258, 290, 301 306, 309, 310
土生 健	15, 25, 64, 98, 174, 183
林 尚志	59, 66, 68
春山 曜美*	292
日埜 衆司	65, 73, 81, 87, 88, 92, 95 97, 112, 113, 127, 132, 140 154, 192, 224
平川 隆*	41, 42
平松 伸章	165, 174, 301
広木 守雄*	150, 151
深澤 剛靖	294, 301, 311
古谷 実	41, 42, 51, 59, 63, 66, 70 73, 80, 84, 85, 87, 89, 95 100, 101, 112, 126, 128, 159 173, 273, 278, 280

ま行

松田 公徳	173, 188, 285, 296
丸山昭二郎*	168, 192

や行

矢島 圭子	27, 40, 43, 55, 55
矢嶋 祐次*	276
山田 孝行*	89
山本 昭	252, 287, 289, 292, 294
山本恵美子	173, 183
横尾 宏	133, 135, 146, 160, 193, 201 206, 233, 251, 290, 293
米澤 稔	236, 237, 247, 281, 291, 295 301, 302, 304, 306

個人著者(外国人著者)

Arntz, H.*	53
Boisard, Genevieve *	158
Chubarian, O. S.	9
Groenewegen, Hans W.*	159
Pronko, Eugene *	29
Vernimb, Carlo *	148
Vorobiev, G.G.*	61
Waterman, Alan T.*	33
Zheludev, Ivan S.*	159

付録4 日本原子力研究所図書館の半世紀

昭和30年（1955年）～平成17年（2005年）

昭和30年（1955年）

- 1月 財団法人原子力研究所が設立。企画室調査課が図書館業務を担当。
- 1月 原子力三法が成立。

昭和31年（1956年）

- 4月 日本原子力研究所法が成立。
- 6月 特殊法人日本原子力研究所（以下原研と略す）が財団法人原子力研究所を継承し発足。財団法人原子力研究所の所蔵資料（洋書364冊、和書415冊、地図23冊の計802冊）を引き継ぐ。
- 7月 「増加図書通報」を創刊。
- 8月 原子燃料公社が発足。

昭和32年（1957年）

- 2月 原研の公開研究報告書JAERIレポートを発刊。
- 3月 31年度末で図書2千5百冊、外国雑誌293タイトル、和雑誌及び新聞129タイトルを所蔵。
- 7月 原研東海研究所（以下東海研と略す）が設置。
- 10月 東海研に事務部図書室を設置。
- 11月 東海研図書室での図書館サービスを開始。
- 12月 東海研図書室が東海研所長直属の組織となる。
- 12月 東海研図書室で写真・印刷・複写サービスを開始。

昭和33年（1958年）

- 3月 東海研図書室における米国原子力委員会（以下USAECと略す）のレポート（以下USAECレポートと略す）の所蔵が1万6千件に達する。
- 4月 「研究報告書類執筆の手引」（初版）を編集配布。
- 5月 「図書室ニュース」を創刊。
- 12月 「原研新聞」を創刊。
- 12月 国立国会図書館が「原子力原子核関係機関所蔵科学技術雑誌総合目録（増補版）」を刊行（国立国会図書館、東京大学原子核研究所、科学技術庁原子力局、原子燃料公社、原研、原子力産業会議の6機関所蔵誌を収録）。
- * 「研究発表一覧」（年刊）を創刊。

* ○印は月が確認できなかった事項を表す。

昭和34年（1959年）

- 2月 日本原子力学会の創設。
- 3月 33年度の図書室利用は貸出3千7百冊、閲覧2千5百人、文献複写3千4百件。
- 4月 研究発表の届出手続を制度化。
- 5月 東海研図書館（地上2階、地下1階、総面積885m²）が完成し移転。
- 6月 東海研図書館建屋でのサービスを開始。

昭和35年（1960年）

- 3月 日本科学技術情報センター（以下JICSTと略す）が原子力レポートの受け入れ開始。
- 6月 東海研図書館が所蔵する主要なロシア語文献を選択し、翻訳配布するためロシア語翻訳小委員会が発足。
- 8月 図書資料管理事務規則を制定。
- 10月 原研東海研の組織改正により、図書館（図書課及び編集課）となる。

昭和36年（1961年）

- 4月 JICSTが「科学技術文献速報（原子力）編」（月刊）を創刊。

昭和37年（1962年）

- 9月 歐州原子力共同体（EURATOM）のトランスマト寄託図書館となる。
- 10月 最新の研究成果等を短信でとりまとめた「技術情報」（月刊）を創刊。
- 図書資料管理台帳の作成にパンチカードシステムを導入。
- 所外文献複写サービスを開始。

昭和38年（1963年）

- 1月 「原研資料情報」を創刊。
- 4月 原研高崎研究所が設置。図書室が開館。
- 4月 図書館が技術情報部と名称を変更（本年表では以下でも原研図書館で名称を統一する）。
- 5月 「JAERI レポート一覧」（年刊）を創刊。
- 10月 USAECから寄託図書館の指名を受け USAEC レポート5万件の寄贈。
- 10月 科学技術庁原子力局の要請により「Nuclear Science Abstracts of Japan」（以下NSAJと略す）の刊行開始。

昭和39年（1964年）

- 7月 原研研究報告書類を速報する「原研びよりお」（月刊）の創刊。
- 原研新着雑誌目次速報「Content Weekly」の創刊。

昭和40年（1965年）

- 1月 国内原子力関係の重要論文を英訳して「NSJ-Tr」シリーズとして海外配布。
- 9月 研究成果の英文報知誌「Technical Publications by JAERI Staff」（年刊）を創刊。
- 10月 図書資料の購入及び目録作成等の機械化について検討する機械化ワーキンググループを設置。

昭和41年（1966年）

- 3月 40年度末で図書2万3千冊、外国雑誌7百タイトル、レポート等12万件、製本雑誌1万7千冊を所蔵。40年度の利用は貸出1万3千件、閲覧1万4千件、文献複写1万4千件。所外文献複写サービスは623件。
- 5月 技術情報部（情報資料課、図書課）が本部組織となり、各地区図書室の運営も担当。
- 5月 原研の研究成果のとりまとめ及び普及について検討する研究成果編集委員会を設置。
- 8月 東海研図書館新館（地上2階、地下1階、総面積2,682 m²）が完成。図書館は新館及び旧館を併せて総面積3,567 m²の図書館となる。
 - 図書資料所蔵目録の電子計算機による作成の試験的実施。
 - 国際原子力機関（以下IAEAと略す）から国際原子力情報システム（以下INISと略す）計画の提案。

昭和42年（1967年）

- 1月 「研究成果要旨集」（月刊）を創刊。
- 4月 原研研究報告書類の1シリーズとして公開JAERI-memoを発刊。
- 4月 原研大洗研究所が設置。大洗研究所への図書館サービスを開始。
- 4月 原子燃料公社との間で図書資料相互貸借契約を締結。
- 6月 高崎研究所付属大阪研究所が発足。大阪研究所の蔵書調査及び図書原簿の整備。図書室運営の技術指導を実施。
- 10月 原子燃料公社が解散し、動力炉核燃料開発事業団（以下動燃と略す）が発足。

昭和43年（1968年）

- 所蔵雑誌及び図書目録の電算機編集システムが完成。

昭和44年（1969年）

- 1月 外国雑誌の値上がり（毎年10～15%）に対応し、10%の雑誌を削減。
- 5月 （財）原子力弘済会が発足。原研から所外文献複写サービスが移管。
- 10月 IAEAが運営するINISに段階を追って協力する方針を理事会で決定。

昭和45年（1970年）

- 3月 図書館所蔵原子力レポートの番号索引を電子計算機編集で作成。
- 3月 NSAJ を廃刊。
- 5月 NSAJ を継承した「Nuclear Science Information of Japan」（以下 NSIJ と略す）を創刊。
- 9月 國際原子力情報システム協議会（国内委員会、以下 INIS 協議会と略す）を設置。
- 11月 第1回 INIS 訓練セミナー（インド国ボンベイ）に職員2名を派遣。

昭和46年（1971年）

- 1月 著作権法の改正に伴い政令に基づく複写認可施設となる。
- 3月 「原子力の科学技術情報の交換についての協力のための原研と USAEC との間の了解覚書」（以下日米覚書と略す）が締結。
- 3月 NSIJ の編集を電子計算機処理に切替え。
- 4月 日本原子力学会に情報流通特別専門委員会が発足。
- 4月 原研研究報告書類及び学協会誌の論文別刷等を管理・提供する成果資料室を設置。
- 9月 INIS への書誌データの提供を紙媒体から磁気テープへ変更。
- 9月 第4回原子力平和利用国際会議で原研の成果一覧を取りまとめた「Technical Publications by JAERI Staff」を配布。
- 10月 原研研究報告書類の取扱いに関する「研究報告書類投稿要領」及び「研究報告書類配布要領」を制定。研究成果編集委員会による JAERI レポートのレフェリー審査制度を導入。公開 JAERI-memo を JAERI-M レポートに名称を変更。また、海外への配布にマイクロフィッシュを採用。
- 10月 INIS 協議会が「INIS に対応して行われる国内活動に関する基本の方策の策定について」をとりまとめ理事長へ意見具申。
- 10月 東京大学原子炉施設と図書資料無償貸借契約を締結。

昭和47年（1972年）

- 1月 INIS への非市販資料全文の提供を冊子体からマイクロフィッシュに変更。
- 2月 INIS の抄録誌「INIS Atomindex」を用いた所内向けの主題分類別選択配布サービスを開始。
- 2月 電子計算機による検索技術習得のためにユーラトム技術情報センターに職員1名を派遣（2か月間）。
- 3月 46年度の所外文献複写サービスは6,565件（大学947件、官公庁654件、民間企業1,427件、動力炉・核燃料開発事業団1,841件、日本原子力産業会議経由1,679件、個人17件）。

- 3月 日米覚書に基づき USAEC から米国特許明細書（原子力分野）の寄贈が開始。
- 11月 INIS の抄録誌「INIS Atomindex」に収録されている会議文献を抽出し「会議文献速報」を編集・配布。

昭和48年（1973年）

- 1月 原研の成果を報知する「研究成果要旨集」を、新たに学会誌等掲載論文、JAERI レポート及び JAERI-M レポートを採録する「原研研究成果要旨集」（月刊）と改題して刊行開始。
- 2月 第11回原子力総合シンポジウム（25日、東京）において、総合講演「原子力関係技術情報の流通」と題した4講演、また、INIS の PR 映画の日本語版を作成し上映。
- 2月 図書館総合機械化について「第一次図書資料管理機械化報告書」（JAERI-M 05144）をとりまとめて刊行。
- 10月 INIS 業務を担当する国際情報室を設置。

昭和49年（1974年）

- 3月 49年度の利用は閲覧2万件、貸出1万3千件、文献複写1万9千件（所内8千件、所外1万1千件）。

昭和50年（1975年）

- 1月 INIS へ提供するレポート全文のマイクロフィッシュを従来の60コマ/1枚から98コマ/1枚に変更して送付開始。
- 2月 INIS 協議会情報流通専門部会が日本原子力学会会員に対して原子力情報の需要アンケートを実施。
- 3月 49年度末で図書4万冊、新刊雑誌1,280タイトル、製本雑誌2万4千5百冊、レポート22万件を所蔵。49年度の外部文献複写サービスは1万件を突破。

昭和51年（1976年）

- 3月 INIS への抄録データの提供を紙媒体から磁気テープに変更。
- 6月 原子力分野の国際的抄録誌「Nuclear Science Abstracts」が廃刊。
- 6月 韓国科学技術情報センターの招請により、職員1名を派遣して INIS 検索システムの開発についてコンサルティング（10日間）

昭和52年（1977年）

- 3月 日米覚書が終結。
- 5月 日本ドクメンテーション協会から優秀ドクメンテーション機関賞を受賞。

昭和 53 年 (1978 年)

- 4月 原研内で INIS データベースの最新情報検索 (Selective Dissemination of Information, 以下 SDI と略す) サービス (バッチ処理) を開始。
- 10月 (財) 原子力弘済会が国内向けの INIS データベースの SDI サービス(バッチ処理)を開始。

昭和 54 年 (1979 年)

- 4月 米国原子力規制委員会 (USNRC) の原子力規制資料 (DOCKET) の収集を開始。
- 5月 「マイクロフィッシュへのカッティングマークの付与; 国際原子力情報システムにおける対応と解決」(小池邦雄) の論文に対して東海マイクロ写真協会論文賞を受賞。
- 9月 原研内で INIS データベースの遡及検索 (Retrospective Search, 以下 RS と略す) サービス (バッチ処理) を開始。
- 10月 (財) 原子力弘済会が国内向けに INIS データベースの RS サービス (バッチ処理) を開始。
- 11月 図書館における最初の外国人研修生としてバングラディッシュ原子力委員会の職員 1 名を受け入れ INIS 計画について研修。

昭和 55 年 (1980 年)

- 6月 「原研研究報告書速報」(月刊) を創刊。
- 10月 INIS へのデータフランギングを付与した書誌情報の提供を開始。
○ 所蔵会議資料電算機索引作成システム CBR が稼動。

昭和 56 年 (1981 年)

- 4月 放射線医学総合研究所那珂湊支所と図書資料無償貸借契約を締結。
- 10月 原研内 INIS オンライン検索サービスを開始。
- 10月 JAERI レポート及び JAERI-M レポートに著作権記号を表示。
○ INIS 索引語付与に有用な著者付与キーワードの学協会における普及状況についての調査を実施。

昭和 57 年 (1982 年)

- 9月 原研那珂研究所図書室でのサービスを開始。

昭和 58 年 (1983 年)

- 4月 原研那珂研究所図書室で図書館データ処理パリオットシステムが稼動。
- 4月 JICST との間で INIS データベースの JICST Online Information System (以下 JOIS と略す) による国内提供についての覚書を締結。

- 4月 「情報検索における効率性の研究；特に自動ランキング法の評価」(海老沼幸夫)に対して丹羽賞学術賞を受賞。
- 5月 「INIS データベースの入力データの自動修正、検索システムの開発及び検索システムの効率化」(小松原康敏)に係わる一連の論文に対して日本ドクメンテーション協会賞論文賞を受賞。
- INIS データベースを用いた所蔵レポート目録電子計算機作成システム RANSER が稼動。

昭和59年（1984年）

- 1月 JICST が INIS データベースの JOIS での国内提供を開始。
- 9月 所内向けの INIS 補完検索サービスを開始。
- 10月 「INIS アジア・太平洋地域訓練セミナー」(22日～27日、東京及び東海村、9か国 28名参加)を開催。
- オフィスコンピュータを用いた図書館データ処理システムの構築を開始。

昭和60年（1985年）

- 3月 原研が日本原子力船開発事業団と統合。
- 11月 INIS 稼動 15周年記念シンポジウム「拓け行く原子力情報の利用」(26日、東京、約 180 名参加)を開催。また、「INIS 実施 15周年記念誌」を刊行。
- オフィスコンピュータを用いた図書館データ処理システムのうちオンライン雑誌管理システムが稼動。

昭和61年（1986年）

- 1月 研究成果編集委員会 SI 検討小委員会が取りまとめた「原子力分野における国際単位系（SI）の手引き」(A5版、151頁)を出版。
- 2月 第24回原子力総合シンポジウム（24～25日、東京）で「効率的な学術情報伝達の現況と展望」をテーマに 5 講演を実施。
- 3月 60年度末で図書4万9千冊、雑誌1千4百タイトル、製本雑誌3万5千冊、レポート72万3千件を所蔵。60年度の利用は閲覧2万3千件、貸出2万3千件、文献複写2万9千件（所内1万4千件、所外1万5千件）。
- オフィスコンピュータを用いた図書館データ処理システムのうち閲覧・貸出システムが稼動。

昭和62年（1987年）

- 1月 国際エネルギー機関（IEA）のエネルギー技術データ交換計画（以下 ETDE と略す）が発足し、原研が国の指名を受けて新エネルギー・産業技術開発機構（NEDO）と共に日本の締約機関として参加。

- 1月 国内原子力関連学協会の予稿集等を情報源とする口頭発表英文情報誌「Nuclear Science Information of Japan; Oral Presentation」(以下 NSIJ-OPと略す)を NSIJ の後継誌として創刊。
- 4月 オフィスコンピュータを用いた図書館データ処理システムの閲覧・貸出システムが稼動。

昭和 63 年 (1988 年)

- 3月 INIS データベースの累積データが 118 万件 (日本から提供したデータの総計は 6 万 3 千件)。
- 5月 「図書館データ処理システムの開発」(板橋慶造、峯尾幸信、米澤稔)に係わる一連の論文に対し情報科学技術協会賞論文賞を受賞。
- 12月 ENERGY データベースの所内オンライン情報検索サービスを開始。

平成 元年 (1989 年)

- 4月 東海研等で所蔵資料データベース TOSHO のオンライン検索サービスを開始。
- 7月 JICST が ETDE の ENERGY データベースのオンライン検索サービスを STN International を介して国内に提供。
- 9月 マレーシア国 INIS リエゾンオフィサーを原子力情報の収集と提供の研修で受け入れ (2か月間)。
- 10月 USDOE と人員派遣協定を結び職員 1 名を国立オークリッジ研究所に研修のため派遣 (2か月間)。

平成 2 年 (1990 年)

- 1月 第 1 回図書館利用者会議を開催。
- 4月 原研研究報告書類や外部発表の書誌データを電子計算機処理する研究成果利用管理システム (JOLIS) の運用を開始。
- 4月 INIS20 周年行事として、日本原子力学会年会 (3 日、東京) で総合講演「原子力情報の流通」で 5 講演。併せて、INIS 検索デモンストレーション等を実施。
- 6月 原研の研究成果の外部発表を促進するために口頭発表に係わる学協会参加登録料の助成拡大等の施策を実施。
- 7月 西独 INIS センターの主題専門家 1 名を受け入れ INIS の主題分野について検討すると共に実務経験について意見交換 (1か月間)。
- 10月 「情報の科学と技術」(情報科学技術協会刊) 40 卷、10 号が「特集、情報システムの今後の展望; 国際原子力情報システム (INIS)」を掲載。
- 10月 第 8 回 ETDE 執行委員会 (4 日~5 日、東京、9か国 3 国際機関から 21 名参加) を開催。

11月 マレーシア国INISセンターに職員1名を派遣しINIS計画及び図書館自動化について指導(3週間)。

平成3年(1991年)

- 1月 中国核情報センターに職員1名を派遣し、INIS計画について指導。
- 3月 IAEA・INIS課に職員1名を派遣しINIS計画について情報交換。
- 7月 仏国INISセンターから主題専門家1名を受け入れて業務経験を交換(1か月間)。
 - INISデータベースのCD-ROM版の販売開始。
 - タイ国原子力庁職員1名を受け入れて図書館業務の電子計算機化について技術支援。

平成4年(1992年)

- 3月 インドネシア国原子力庁原子力研究センターに職員1名を派遣し図書館業務の電子計算機処理について技術支援。

平成5年(1993年)

- 4月 JICSTがINISデータベースの国内オンライン提供をJOISからSTN Internationalの検索サービスに変更して提供。

平成6年(1994年)

- 1月 USDOEとの人員派遣協定に基づき職員1名を派遣し原子力情報処理についての業務経験を交換(1か月間)。
- 1月 中国核情報センター職員1名を受け入れて原子力情報の収集と提供について研修を実施(3か月間)。
- 4月 原研研究報告書類制度を改定。新制度では研究報告書をJAERIレポート、JAERI-Research, JAERI-Tech, JAERI-Data/Code, JAERI-Review, JARERI-Confの6種類に再区分。

平成7年(1995年)

- 7月 原研の研究成果をわかりやすくタイムリーに紹介する「たゆまざる探究の軌跡」(年刊)を創刊。
- 10月 原研関西研究所が設置。図書室が開館。
- 11月 「たゆまざる探究の軌跡」電子版を原研ホームページを介して提供。
- 12月 「たゆまざる探究の軌跡」の英文版「Persistent Quest; Research Activities」(年刊)を創刊。

平成 8年（1996年）

- 3月 7年度末で図書5万9千冊、雑誌1千3百タイトル、製本雑誌4万5千冊、レポート201万件を所蔵。7年度の利用は閲覧2万4千件、貸出3万6千件、文献複写1万8千件（所内9千件、所外9千件）。
- 4月 技術情報部の名称変更（技術情報部が研究情報部へ、図書課が情報メディアライブラリーへ、情報資料課が研究情報課へ）。
- 5月 第24回INISリエゾンオフィサー会議（28日～31日、京都、47か国2国際機関から90名参加）を開催。併せて、国内INIS活動25周年記念講演会を開催。
- 5月 「Persistent Quest; Research Activities」電子版を原研ホームページを介して提供。
- 所蔵資料データベースTOSHOのオンライン検索サービスを全研究所で提供。

平成 9年（1997年）

- 3月 国内INIS活動による貢献に対して第29回日本原子力学会貢献賞（代表高橋智子）を受賞。
- 9月 電力中央研究所と図書館の相互利用についての覚書を締結。

平成10年（1998年）

- 10月 動燃が核燃料サイクル開発機構（以下サイクル機構と略する）に名称を変更。
- 学術雑誌目次速報電子版「Content Alert」を導入し提供。

平成11年（1999年）

- 4月 原研ホームページからの研究報告書類の全文発信、成果申請手続きの電子申請等の機能を搭載した原研研究成果総合利用管理システム（JOLIS II）を開発し運用。
- 11月 WEB版ETDEデータベース（ETDEWEB）の国内無料提供を開始。

平成12年（2000年）

- 10月 東海研図書館の夜間休日開館を実施。
- 10月 原研大洗研究所図書室の拡張移転。
- 12月 研究成果の受付・報知、図書館利用及びINISデータベースの提供等のネットワークを介した総合窓口として図書館ホームページを開設。
- 12月 NSIJ-OPを所内オンラインシステムで提供。

平成13年（2001年）

- 3月 図書館ホームページで原子力情報源リンク集を提供。
- 7月 図書館利用者アンケート調査を全地区で実施。
- 11月 図書館ホームページで外部文献複写サービス（inside web）の提供を開始。
これに伴い、ホームページ上で提供していた学術雑誌「Content Alert」の
提供を中止。
- 12月 図書館ホームページで地区間貸出・複写相互利用サービスの提供開始。

平成14年（2002年）

- 9月 INIS 協議会情報流通専門部会 100回開催の記念行事として日本原子力学
会秋の大会（16日、いわき市）で総合報告として5講演。

平成15年（2003年）

- 2月 図書館の夜間休日開館に対する利用者アンケートを実施。
- 4月 INIS 本部が提供するインターネット版INISデータベースの国内大学への
無料提供を開始。
- 9月 統合に向けた先行的取り組みとして原研東海研とサイクル機構東海事業所
の図書館相互利用を開始。
- 9月 ETDE 計画への日本の参加が終了。

平成16年（2004年）

- 2月 原研とサイクル機構の統合に向けた先行的取り組みとしてサイクル機構全
事業所にINISデータベースの提供を開始。
- 8月 電子的手続による図書資料購入依頼の受付開始。
- 9月 昭和31年以来の図書館利用総数は閲覧108万件、貸出109万件。所蔵資
料データベースTOSHOの収録件数は115万件（図書6万7千件、雑誌2千
8百タイトル、レポート70万件、会議録1万8千件、DOCKET37万件）
(9月末現在)。
- 12月 独立行政法人日本原子力研究開発機構法が公布（原研とサイクル機構の統
合）。

平成17年（2005年）

- 10月 原研とサイクル機構が統合し、独立行政法人日本原子力研究開発機構が發
足。これにより旧2法人の図書館機能も統合し、研究技術情報部のもと研究
技術情報課（研究成果のとりまとめ等）、情報メディア管理課（資料等の収集
と提供）、原子力情報システム管理課（INIS計画業務等）の3課制となる。

This is a blank page.

国際単位系 (SI)

表 1. SI 基本単位

基本量	SI 基本単位	
	名称	記号
長さ	メートル	m
質量	キログラム	kg
時間	秒	s
電流	アンペア	A
熱力学温度	ケルビン	K
物質量	モル	mol
光度	カンデラ	cd

表 2. 基本単位を用いて表されるSI組立単位の例

組立量	SI 基本単位	
	名称	記号
面積	平方メートル	m^2
立体	積立法メートル	m^3
速度	メートル毎秒	m/s
加速度	メートル毎秒毎秒	m/s^2
波数	メートル毎メートル	m^{-1}
密度(質量密度)	キログラム毎立方メートル	kg/m^3
質量体積(比体積)	立方メートル毎キログラム	m^3/kg
電流密度	アンペア毎平方メートル	A/m^2
磁界の強さ	アンペア毎メートル	A/m
(物質量の)濃度	モル毎立方メートル	mol/m^3
輝度	カンデラ毎平方メートル	cd/m^2
屈折率	(数の)1	1

表 3. 固有の名称とその独自の記号で表されるSI組立単位

組立量	SI 組立単位		
	名称	記号	他のSI単位による表し方
平面角	ラジアン ^(a)	rad	$m \cdot m^{-1}=1^{(b)}$
立体角	ステラジアン ^(a)	sr ^(c)	$m^2 \cdot m^{-2}=1^{(b)}$
周波数	ヘルツ	Hz	s^{-1}
压力	ニュートン	N	$m \cdot kg \cdot s^{-2}$
応力	パスカル	Pa	N/m^2
エネルギー、仕事、熱量	ジユール	J	$N \cdot m$
功率、放射束	ワット	W	J/s
電荷、電気量	クーロン	C	$N \cdot A$
電位差(電圧)、起電力	ボルト	V	W/A
静電容量	ファラード	F	C/V
電気抵抗	オーム	Ω	$m^2 \cdot kg \cdot s^{-2} \cdot A^{-2}$
コンダクタンス	ジーケンス	S	A/V
磁束密度	テスラ	T	Wb/m^2
インダクタンス	ヘンリ	H	Wb/A
セルシウス温度	セルシウス度	$^{\circ}C$	$cd \cdot sr^{(d)}$
光度	ルーメン	lm	$m^2 \cdot m^{-2} \cdot cd=cd$
照度	ルクス	lx	lm/m^2
(放射性核種の)放射能	ベクレル	Bq	s^{-1}
吸収線量、質量エネルギー	ギレイ	Gy	J/kg
一分率、カーマ			$m^2 \cdot s^{-2}$
線量当量、周辺線量当量	シーベルト	Sv	J/kg
方向性線量当量、個人線量当量、組織線量当量			$m^2 \cdot s^{-2}$

(a) ラジアン及びステラジアンの使用は、同じ次元であっても異なる性質をもった量を区別するときの組立単位の表し方として利点がある。組立単位を形作るときのいくつかの用例は表 4 に示されている。

(b) 実際には、使用する時には記号 rad 及び sr が用いられるが、習慣として組立単位としての記号 “1” は明示されない。

(c) 測光学では、ステラジアンの名称と記号 sr を単位の表し方の中にそのまま維持している。

(d) この単位は、例としてミリセルシウス度 $m^{\circ}C$ のように SI 接頭語を伴って用いても良い。

表 4. 単位の中に固有の名称とその独自の記号を含むSI組立単位の例

組立量	SI 組立単位		
	名称	記号	SI 基本単位による表し方
粘度	パスカル秒	$Pa \cdot s$	$m^{-1} \cdot kg \cdot s^{-1}$
の分子	ニュートンメートル	N · m	$m^2 \cdot kg \cdot s^{-2}$
表面張力	ニュートンメートル	N/m	$kg \cdot s^{-2}$
角速度	ラジアン毎秒	rad/s	$m \cdot m^{-1} \cdot s^{-1} \cdot s^{-1}$
角加速度	ラジアン毎平方秒	rad/s ²	$m \cdot m^{-1} \cdot s^{-2} = s^{-2}$
熱流密度、放射照度	ワット毎平方メートル	W/m^2	$kg \cdot s^{-3}$
熱容量、エントロピー	ジュール毎ケルビン	J/K	$m^2 \cdot kg \cdot s^{-2} \cdot K^{-1}$
質量熱容量(比熱容量)	ジュール毎キログラム		
質量エントロピー	毎ケルビン		
質量エネルギー(比エネルギー)	ジュール毎キログラム	J/kg	$m^2 \cdot s^{-2} \cdot K^{-1}$
熱伝導率	ワット毎メートル毎ケルビン	$W/(m \cdot K)$	$m \cdot kg \cdot s^{-3} \cdot K^{-1}$
体積エネルギー	ジュール毎立方メートル	J/m^3	$m^{-1} \cdot kg \cdot s^{-2}$
電界の強さ	ボルト毎メートル	V/m	$m \cdot kg \cdot s^{-3} \cdot A^{-1}$
体積電荷	クーロン毎立方メートル	C/m^3	$m^{-3} \cdot s \cdot A$
電気変位	クーロン毎平方メートル	C/m^2	$m^{-2} \cdot s \cdot A$
誘電率	ファラード毎メートル	F/m	$m^{-3} \cdot kg^{-1} \cdot s^4 \cdot A^2$
透磁率	ヘンリー毎メートル	H/m	$m \cdot kg \cdot s^{-2} \cdot A^{-2}$
モルエネルギー	ジュール毎モル	J/mol	$m^2 \cdot kg \cdot s^{-2} \cdot mol^{-1}$
モルエントロピー	ジュール毎モル毎ケルビン	J/(mol · K)	$m^2 \cdot kg \cdot s^{-2} \cdot K^{-1} \cdot mol^{-1}$
モル熱容量	ビン		
照射線量(X線及びγ線)	クーロン毎キログラム	C/kg	$kg^{-1} \cdot s \cdot A$
吸収線量	グレイ	Gy/s	$m^2 \cdot s^{-3}$
放射強度	ワット每ステラジアン	W/sr	$m^4 \cdot m^{-2} \cdot kg \cdot s^{-2} = m^2 \cdot kg \cdot s^{-3}$
放射輝度	ワット每平方メートル	$W/(m^2 \cdot sr)$	$m^2 \cdot m^{-2} \cdot kg \cdot s^{-3}$

表 5. SI 接頭語

乗数	接頭語	記号	乗数	接頭語	記号
10^{24}	ヨタ	Y	10^{-1}	デシ	d
10^{21}	ゼタ	Z	10^{-2}	センチ	c
10^{18}	エクサ	E	10^{-3}	ミリ	m
10^{15}	ペタ	P	10^{-6}	マイクロ	μ
10^{12}	テラ	T	10^{-9}	ナノ	n
10^9	ギガ	G	10^{-12}	ピコ	p
10^6	メガ	M	10^{-15}	フェムト	f
10^3	キロ	k	10^{-18}	アト	a
10^2	ヘクタ	h	10^{-21}	ゼット	z
10^1	デカ	da	10^{-24}	ヨクト	y

表 6. 国際単位系と併用されるが国際単位系に属さない単位

名称	記号	SI 単位による値
分	min	1 min=60s
時	h	1h=60 min=3600 s
日	d	1 d=24 h=86400 s
度	°	$1^{\circ}=(\pi/180) \text{ rad}$
分	'	$1'=(1/60)^{\circ}=(\pi/10800) \text{ rad}$
秒	"	$1''=(1/60)'=(\pi/648000) \text{ rad}$
リットル	L	$1L=1 \text{ dm}^3=10^{-3} \text{ m}^3$
トン	t	$1t=10^3 \text{ kg}$
ネーベル	Np	$1Np=1$
ベル	B	$1B=(1/2) \ln 10 (Np)$

表 7. 国際単位系と併用されこれに属さない単位で SI 単位で表される数値が実験的に得られるもの

名称	記号	SI 単位であらわされる数値
電子ボルト	eV	$1eV=1.60217733(49) \times 10^{-19} \text{ J}$
統一原子質量単位	u	$1u=1.6605402(10) \times 10^{-27} \text{ kg}$
天文単位	ua	$1ua=1.49597870691(30) \times 10^{11} \text{ m}$

表 8. 国際単位系に属さないが国際単位系と併用されるその他の単位

名称	記号	SI 単位であらわされる数値
海里	里	1 海里=1852m
ノット	ト	1 ノット=1 海里毎時=(1852/3600) m/s
アーチル	a	$1a=1 \text{ dam}^2=10^3 \text{ m}^2$
ヘルツ	ha	$1ha=1 \text{ hm}^2=10^4 \text{ m}^2$
バル	bar	$1 \text{ bar}=0.1 \text{ MPa}=100 \text{ kPa}=1000 \text{ hPa}=10^5 \text{ Pa}$
オングストローム	Å	$1 \text{ Å}=0.1 \text{ nm}=10^{-10} \text{ m}$
バイン	b	$1 \text{ b}=100 \text{ fm}=10^{-28} \text{ m}$

表 9. 固有の名称を含むCGS組立単位

名称	記号	SI 単位であらわされる数値
エルグ	erg	$1 \text{ erg}=10^{-7} \text{ J}$
ダイナ	dyn	$1 \text{ dyn}=10^{-5} \text{ N}$
ボアズ	P	$1 P=1 \text{ dyn} \cdot s/cm^2=0.1 \text{ Pa} \cdot s$
ストークス	St	$1 St=1 \text{ cm}^2/s=10^{-4} \text{ m}^2/s$
ガウス	G	$1 G=10^{-4} \text{ T}$
エルステッド	Oe	$1 Oe=(1000/(4\pi)) A/m$
マクスウェル	Mx	$1 Mx=10^{-8} \text{ Wb}$
スビル	sb	$1 sb=1 cd/cm^2=10^4 \text{ cd/m}^2$
ボルト	ph	$1 ph=10^4 \text{ lx}$
ガル	Gal	$1 Gal=1 \text{ cm/s}=10^{-2} \text{ m/s}$

表 10. 国際単位に属さないその他の単位の例

名称	記号	SI 単位であらわされる数値
キュリ	Ci	$1 Ci=3.7 \times 10^{10} \text{ Bq}$
レントゲン	R	$1 R=2.58 \times 10^{-4} \text{ C/kg}$
ラド	rad	$1 rad=1 \text{ Gy}=10^{-2} \text{ Gy}$
レン	rem	$1 rem=1 \text{ cSv}=10^{-2} \text{ Sv}$
X線単位	γ	$1 \gamma=1 \text{ nT}=10^{-3} \text{ T}$
ガンマ	Jy	$1 Jy=10^{-26} \text{ W} \cdot \text{m}^{-2} \cdot \text{Hz}^{-1}$
フェルミ	fm	$1 fermi=1 \text{ fm}=10^{-15} \text{ m}$
メートル系カラット	Torr	$1 \text{ metric carat}=200 \text{ mg}=2 \times 10^{-4} \text{ kg}$
トルル	atm	$1 \text{ Torr}=(101325/760) \text{ Pa}$
標準大気圧	cal	$1 \text{ atm}=101325 \text{ Pa}$
カラリ	μ	$1 \mu=1 \text{ pm}=10^{-6} \text{ m}$
ミクロ		